生まれる前と死んだ後

死生学の地平から

西平　直
上智大学グリーフケア研究所（大阪）

1、生まれる前と死んだ後

生まれる前、私たちはいなかった

非在（未生）

死んだ後、私たちはいなくなる

非在（未生）　「私」の存在　非在（死後）

二つの「非在」に
挟まれた短い時間

人類は様々なことを考えてきた

花の色は　移りにけりな　いたづらに
わが身世にふる　ながめせしまに
（小野小町）

色は匂へど　散りぬるを
わが世　誰ぞ　常ならむ
（いろは歌）

１－２　子どもの頃の不思議

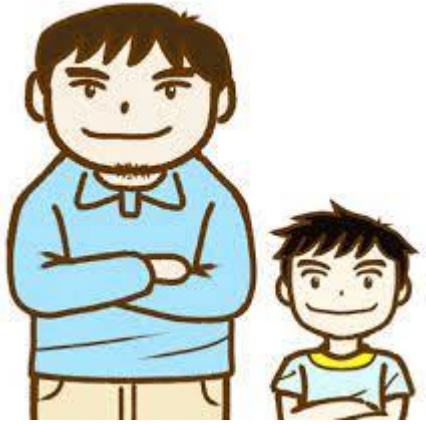
死んだらどこにゆくのか

何も無くなる(?)
「次の世界に行く」方が、納得しやすい

自分の勝手な想像に過ぎない

大人に聴いたら分かるか

「本当のこと」は大人も
知らないのではないか
（そうも思っていた）



・・子どもの頃、就寝前の
暗闇の時間がいやでした。
僕が死後のことを考えるのは
いつもこんな時間でした。

真っ暗な宇宙の中に一人浮かんでいる。何の音もしない。誰もいない。
途方もない寂しさが押し寄せてきて、僕はほとんど毎回泣きながら母を呼んだ。

3ー5歳くらいの時、地獄というものが怖くて、よくうなされていました。・・・夜に電気を消すことを極端に恐れていた記憶があるため、死＝地獄＝暗闇というような発想だったのではないかと思います。

すべての人が死ぬと初めて
気づいた日のことを憶えている。
・・・いつかは、みんな、死んでしまう。

祖父がなぜ寝続けているのか不思議に
思った記憶がある。周りの大人たちが
泣いているのも不思議で、親に尋ねると、
天国に行ったのよ、という。幼いながらに、
それはいいことだと思った。・・・しかし
葬儀になり、火葬になり、骸骨になった
祖父を見てびっくりした。その時の驚きと
言ったら、想像もつかないくらいだった。

二つの「非在」に
挟まれた短い時間

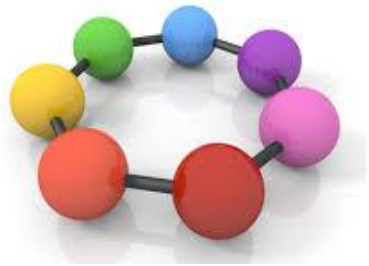
本当に非在なのか

何もなくなってしまうのか

何もなかったのか

人類は様々なことを考えてきた

「唯一の正解」を急がない
ひとつに決めない



１－３　聖書
死後について、詳しく語らない

死んだ後、神のもとに召され、審判を受け、復活の日まで天国で過ごす

・解釈が分かれる

・時代によって異なる

キリスト教的死生観

死はいのちの終わりではない

死を穢れとは捉えない

追善供養は必要ない

「天国」

「御国（みくに）を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」
（主の祈り）

死んだ後、天国にゆくのではない。
天国に来てもらう。この地上に実現されるように。

キリスト者は、死を避けない

信仰共同体に迎え入れられる

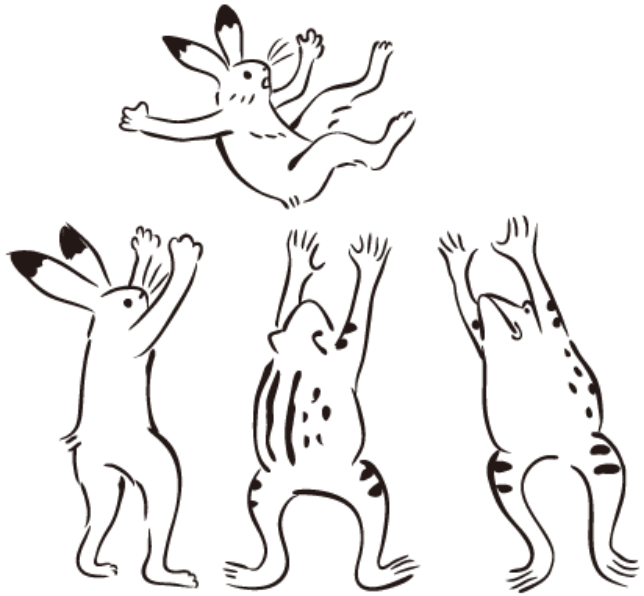
（仲間に祝福される）

信仰共同体

父と母のこと

死において「皆」と共にある

同じ信仰を持った者に限定されるのか



１－４　多様な死生観
多様な側面・解釈の可能性

今回は、二つの理解

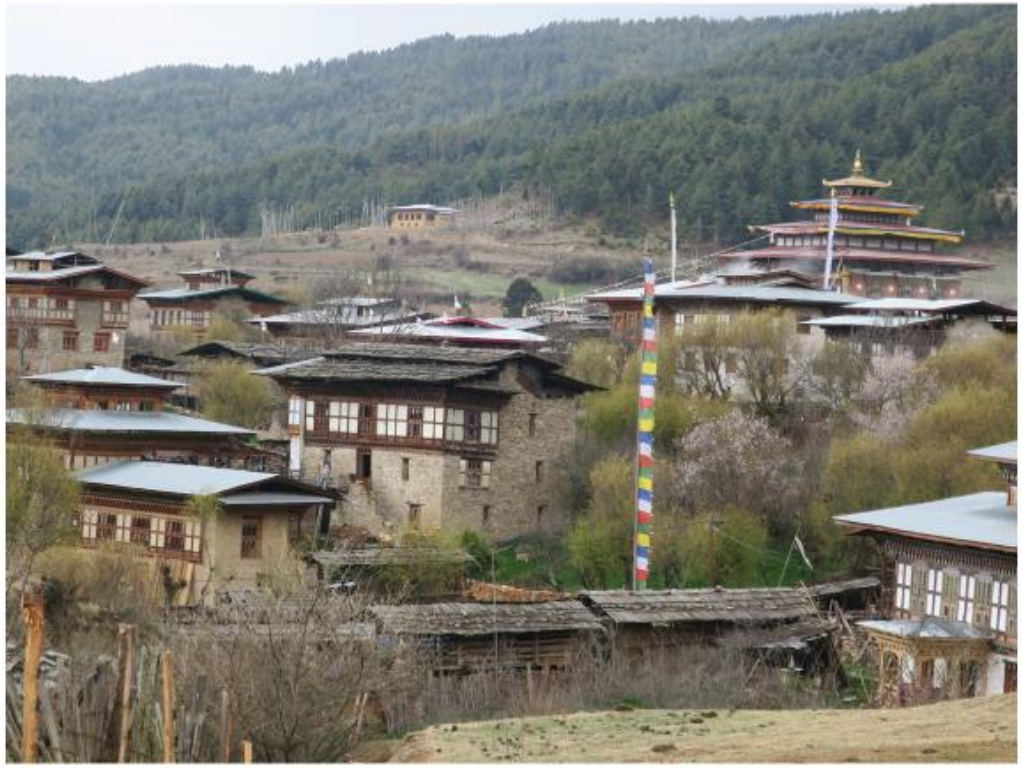
１）転生（てんせい・てんしょう）

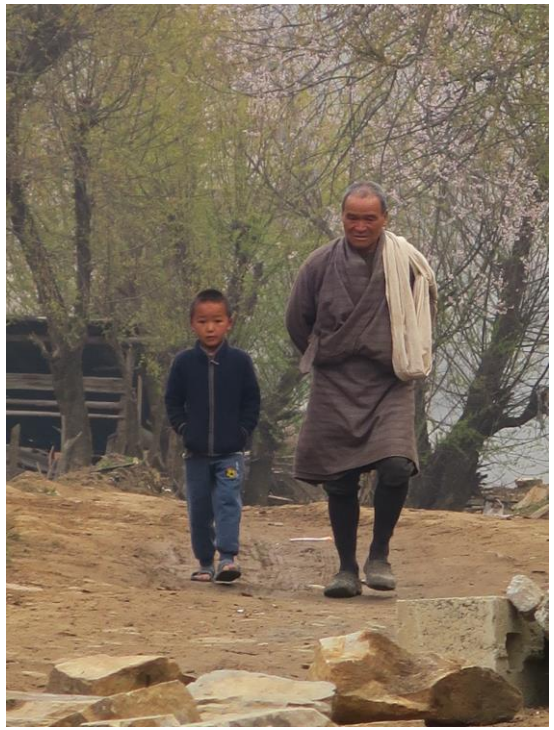
2）不生（ふしょう）

２、転生　生まれ変わり

ブータン王国

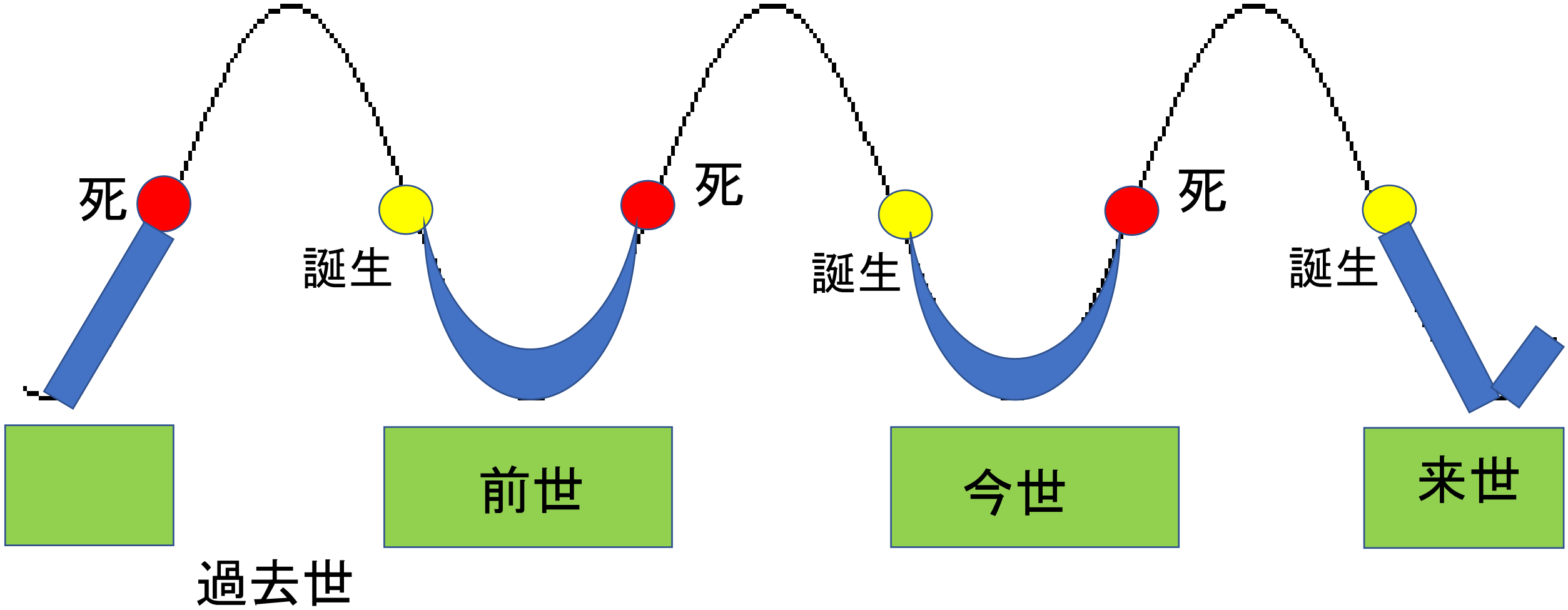
転生を常識とする共同体





POEM

魂が、この地上にやって来て、時が来ると去ってゆく
しかしまた別の形でやってくる



転生が「常識」
（コモンセンス・共通感覚）

社会全体が転生を生きている

転生を信じているのではなく、
転生を生きている

２－２，エピソード（１）
ある学生の言葉

ブータンに生まれて幸せ

Bhutan is the most religious country.
I am very happy to be born here.

ブータンは悟りに最も近い国

Bhutan is the nearest country to the enlightenment.

前世の行いがよかったから

I was born here Bhutan, because I was good in my previous life.

特別な学生なのか

「みんなそう思っていると思うよ」

ブータンに生まれて幸せ

ブータンは悟りに最も近い国

前世の行いがよかったから

転生を「信じている」のではなく

転生を「生きている」

転生を生きる人々の共同体

「常識」

エピソード(2)

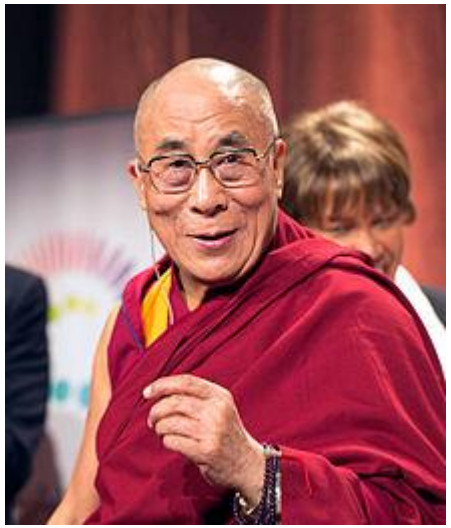
ある家族　定点観測

マイ(8歳の時から)

「友達の弟がトゥルク（化身）だよ」

高僧の転生　　化身

ダライラマ



チベット仏教
　ブータン（カギュ派）
　ダライラマ（ゲルク派）

転生が常識（普通のこと）

みんながその常識を生きている

共通の基盤・土台（社会倫理の土台）

エピソード（３）
「転生」を意味する二種類の言葉

ヤンシィ	ケワ
Yanshy	Kewa
Rebirth of Limpoche 高僧	Rebirth of common people 普通の人

普通の人は
（すべての生き物は）

何度も生まれ変わる
必然・不可避

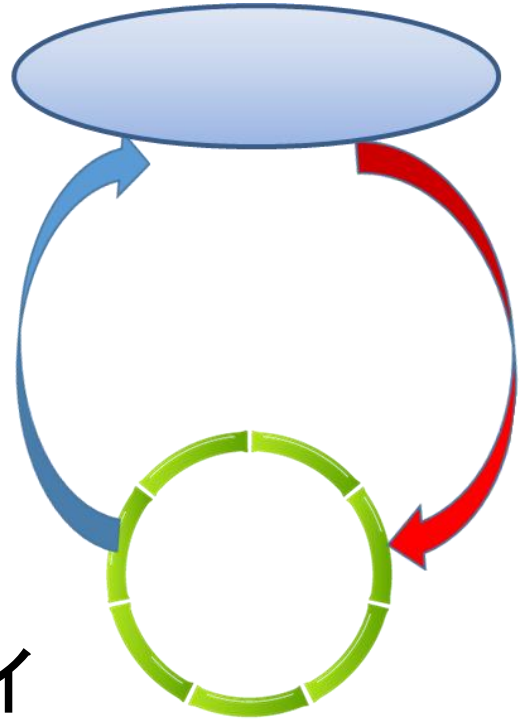
輪廻　⇒　ケワ

リンポチェ
　解脱した高僧

生まれ変わらなくてもよい
　すでに解脱した

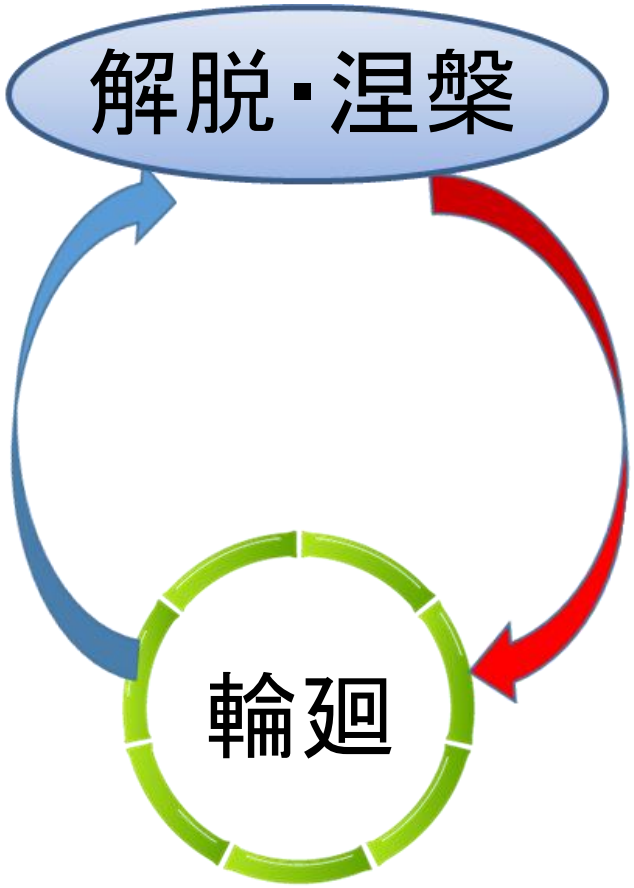
しかし、自分の意志で、
再び、生まれてくる　⇒　ヤンシィ

解脱・涅槃



輪廻しない
（ケワしない）

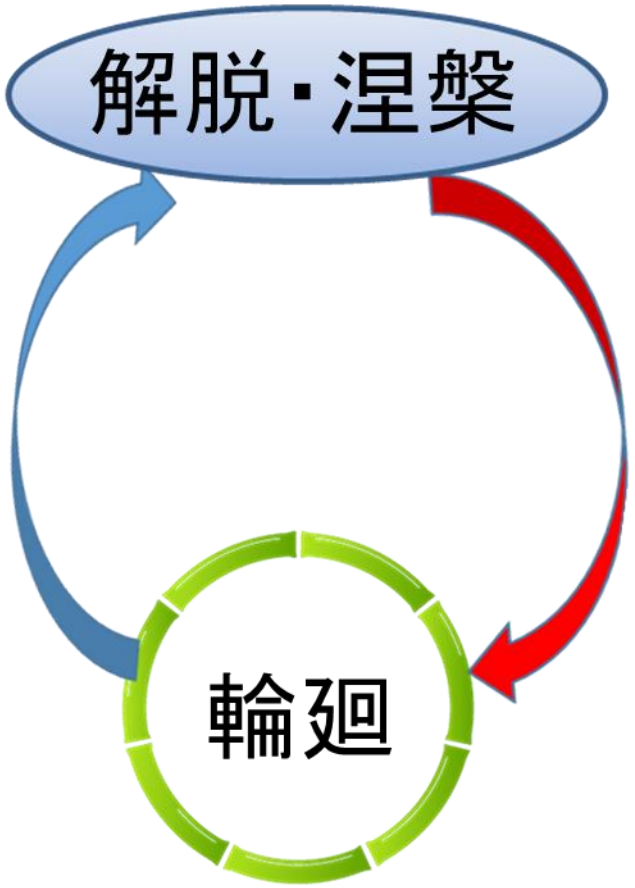
生まれ変わる
必要はない



自分の意志で、
人々のために、
生まれ変わる
（ヤンシィする）

リンポチェ
　輪廻はしないが、転生する
　　＝ヤンシィ

普通の人
　輪廻する　＝ケワ



	リンポチェの転生	普通の人の転生
日本語・英語	「転生　reincarnation」	
ゾンカ語	ヤンシィ 化身 自らの意志で転生 ＊輪廻とは違う	ケワ 普通の人の転生 輪廻

	リンポチェの転生	普通の人の転生	誕生
日本語・英語	転生 reincarnation		誕生 birth

	リンポチェの転生	普通の人の転生	誕生
日本語・英語	転生 reincarnation		誕生 birth
ゾンカ語	「ヤンシィ」 化身 自らの意志で転生 ＊輪廻とは違う	「ケワ」 普通の人の転生　＝　誕生 be reborn （輪廻する）	

２－３、転生の世界観・人間観

時間軸

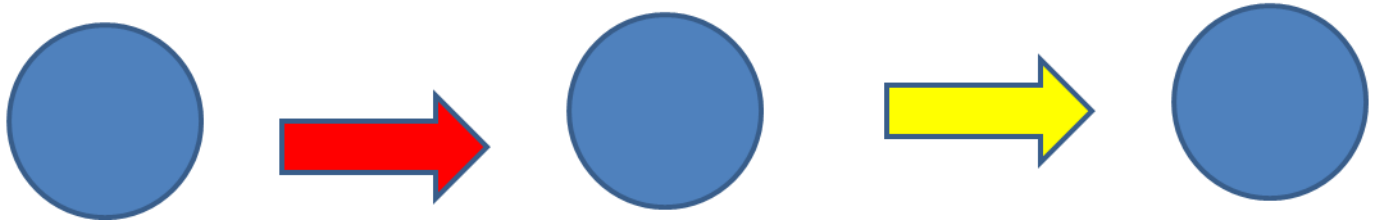
死んでも、また生まれ変わる

空間軸

生命はすべてつながっている

時間軸
カルマの継続

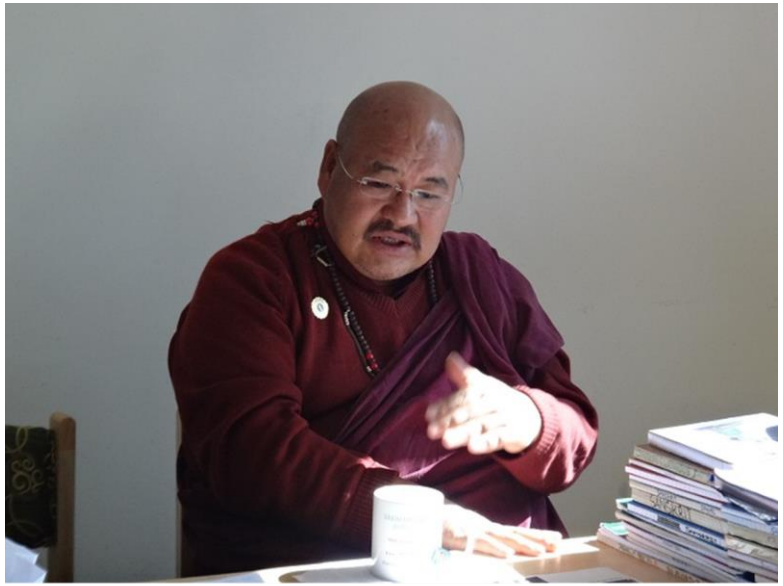
過去世　　今世　　来世



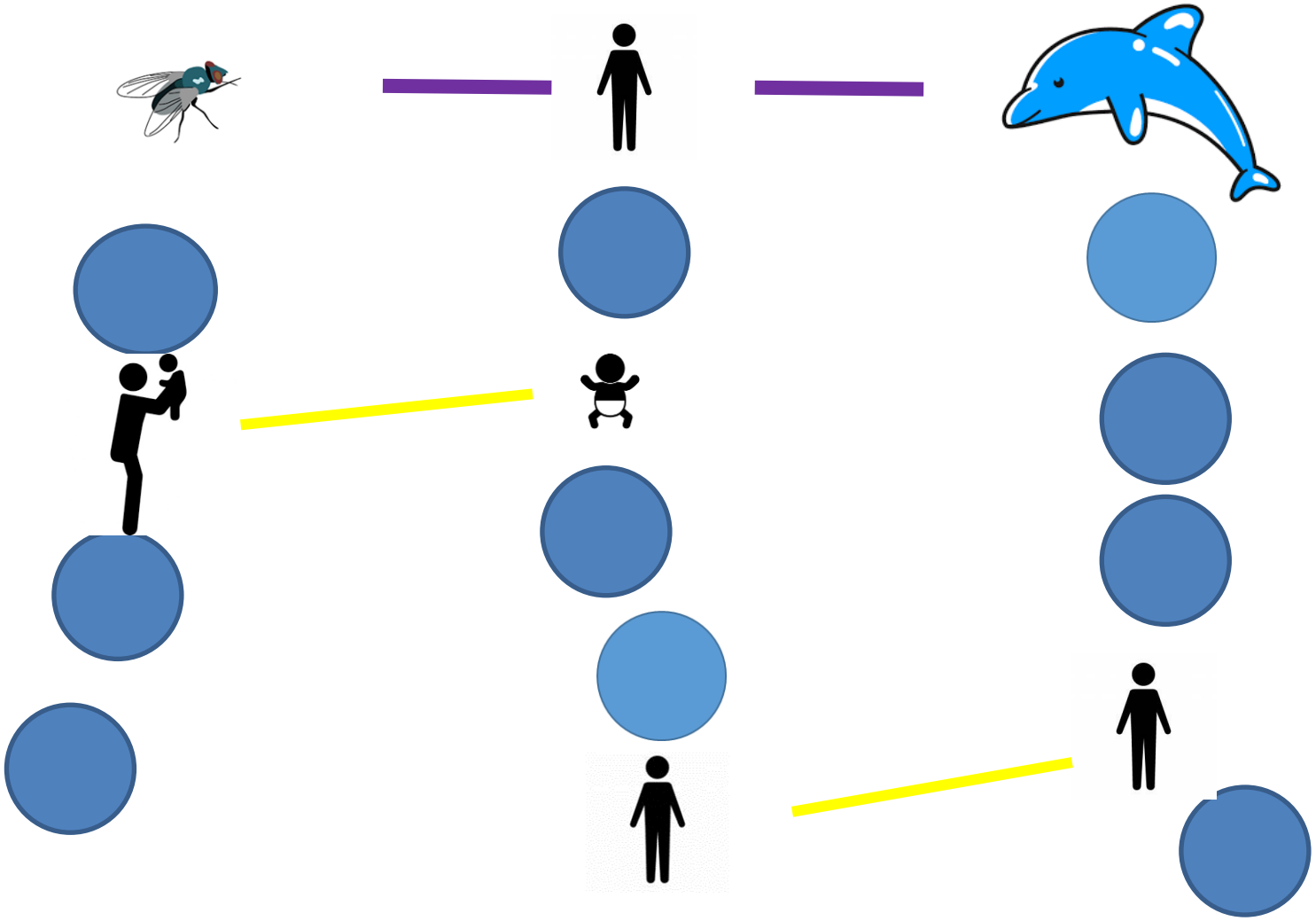
自分の人生が、前後に延長する

空間軸
身内の感覚の拡がり

このハエは、過去世では、
あなたの親であったかもしれない

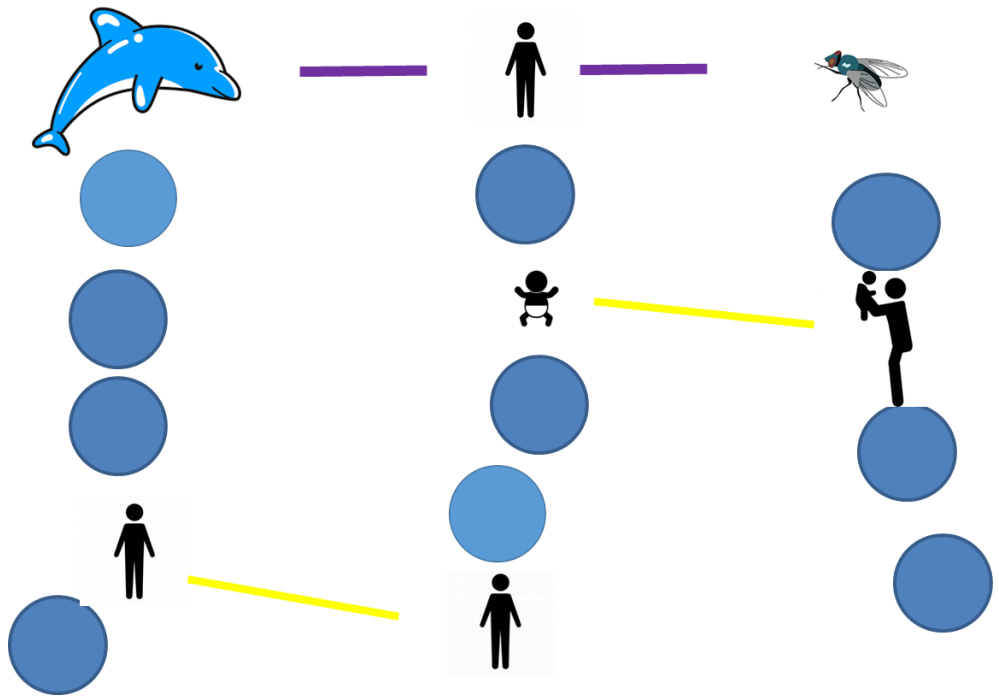


文化言語学院、学長ルンツェン、ギャツォ氏　2011年11月22日

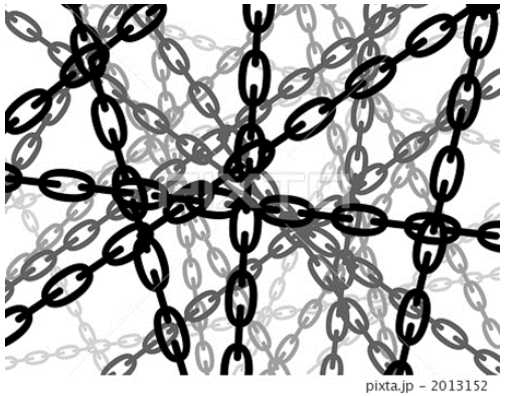


すべてのいのちがつながっている

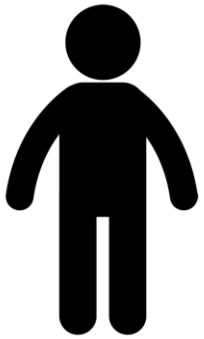
わたしの身内になる



過去世、来世のつながりまで含めると、
生きとし生けるすべてのものが、
私の身内になる

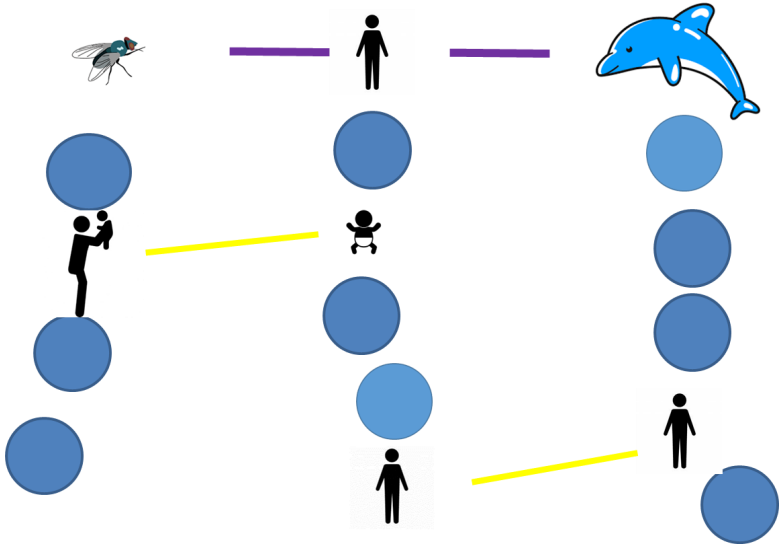


縁起
pratītya-samutpāda

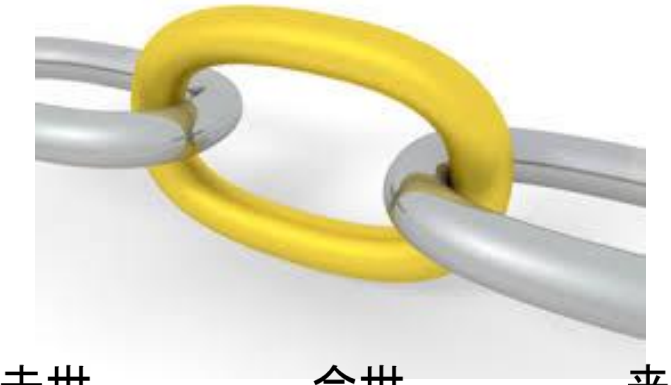


個人の感覚を越えた
「つながり」の感覚

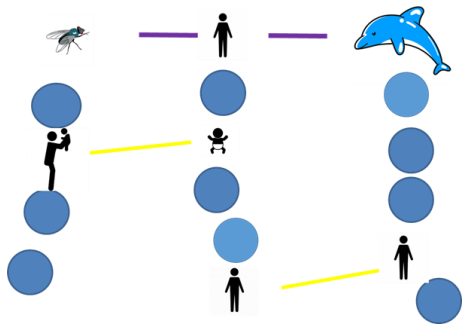
つながりの中にある「わたし」

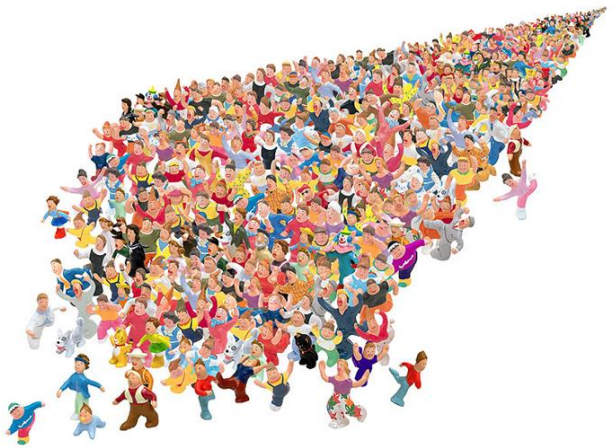


２－４，「私」の感覚 が違う



過去世　今世　来世

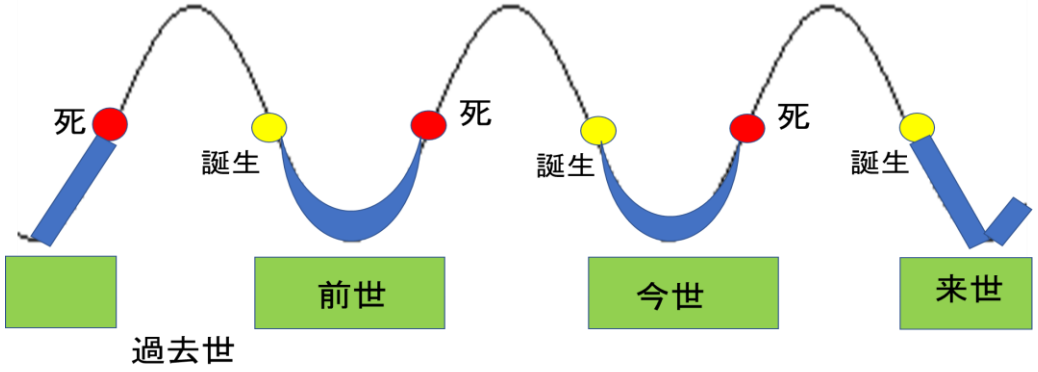




ブータンの人たちは、
自分の前世については、関心を持たない

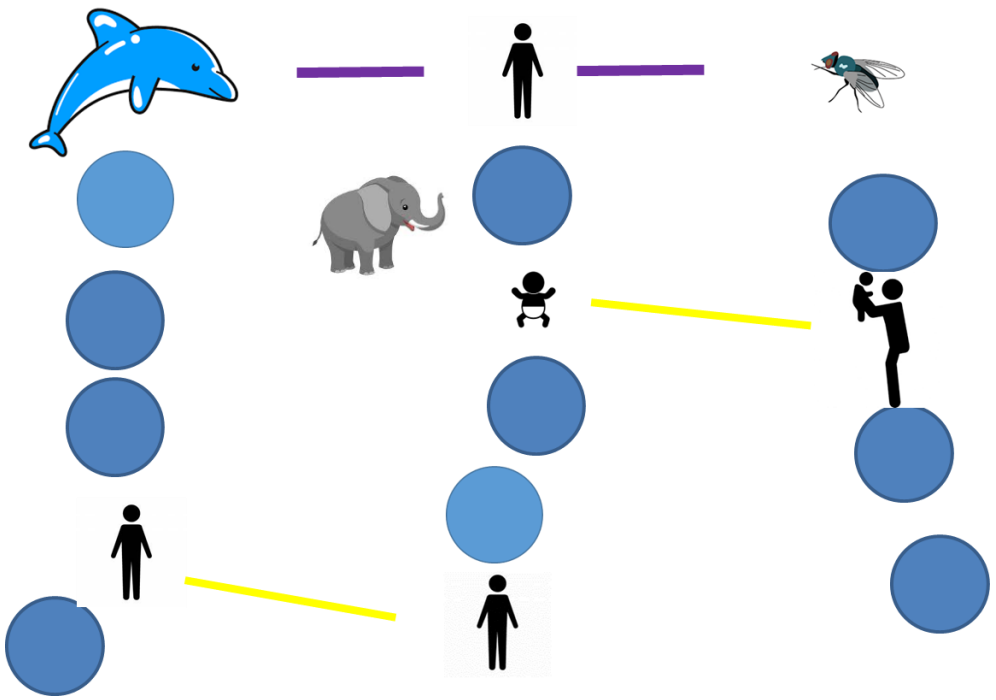
過去世においては、別の姿で
生きていたと感じながら生きる「私」

その感覚（自我感覚）

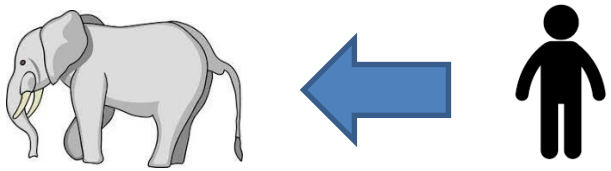


すべてのいのちがつながっている

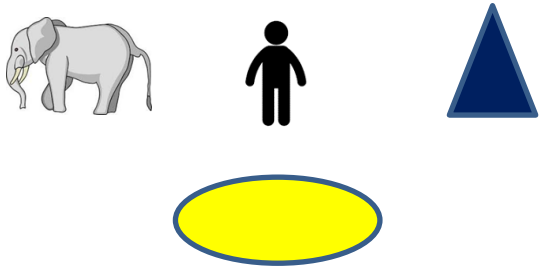
わたしの身内



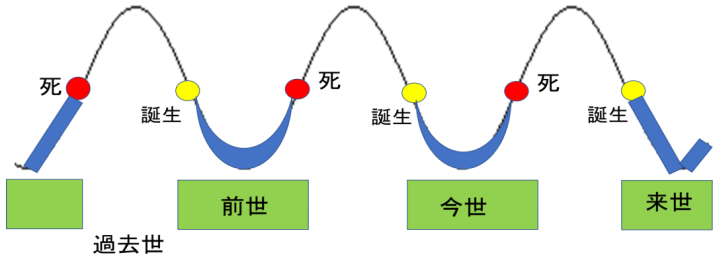
「私の過去世が象」
なのではない



ひとつの魂が、ある時は
象として現れ、ある時は
私として現れ、いずれまた
違った姿で現れてくる



そうした数ある場面のうちの
一つが「私」である



補）

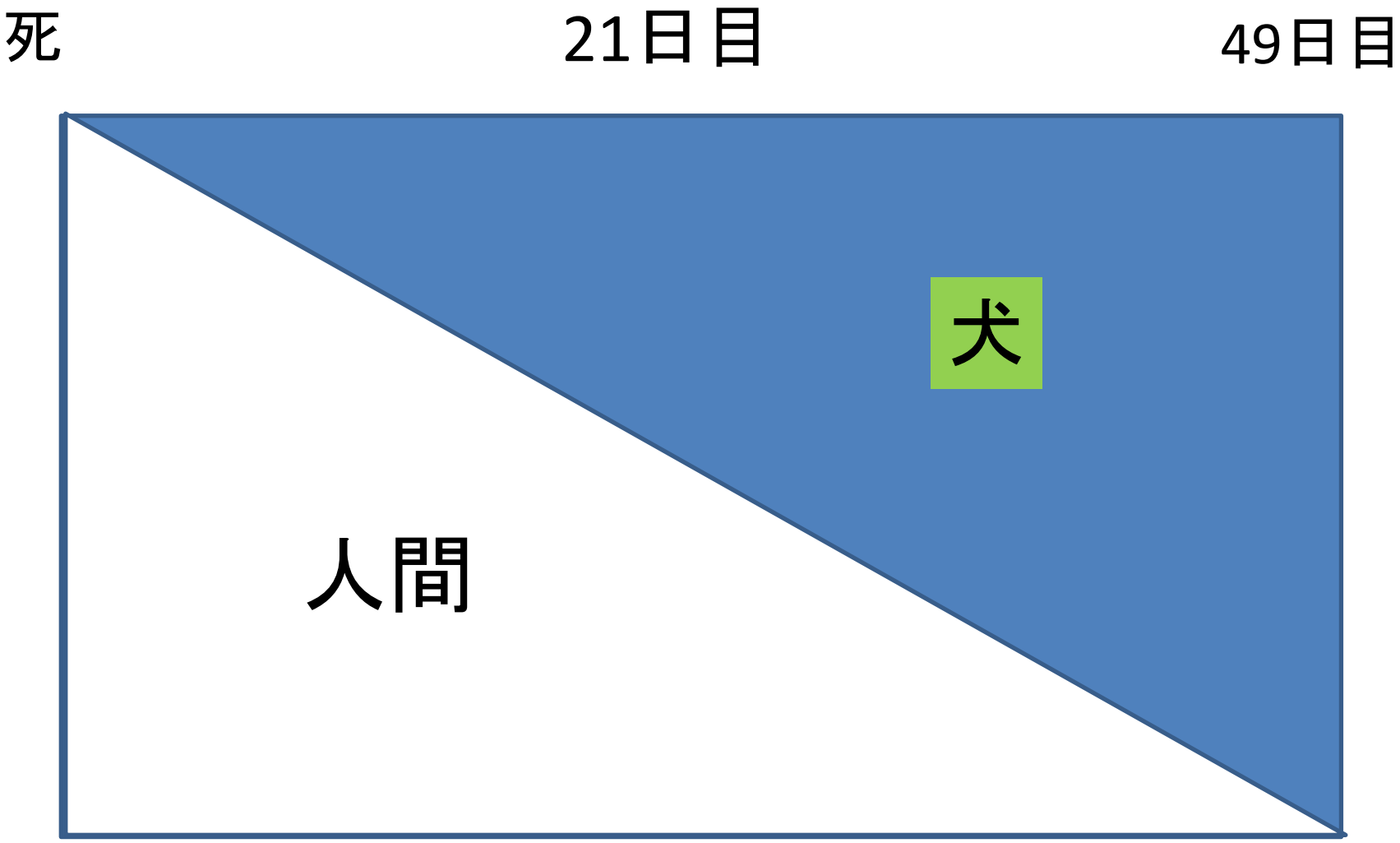
ブータンには墓がない

7days, 14days, 21 days and 49 day

with a group of monk do puja　プージャ（法要）

On 7th day all our close relatives and neighbors come to visit the decease family

more than 1000s butter lamp burned


死
21日目
49日目
犬
人間

49 days is the day where we go to the monastry, and the lama say prayers and let us to burn the photograph of the decease family.

写真を燃やしてしまう（？）

遺品は（？）

ツアツア

王権の問題（国王の権威）

シャブドゥン（建国の祖・17世紀）の転生（化身）による王権

1907年

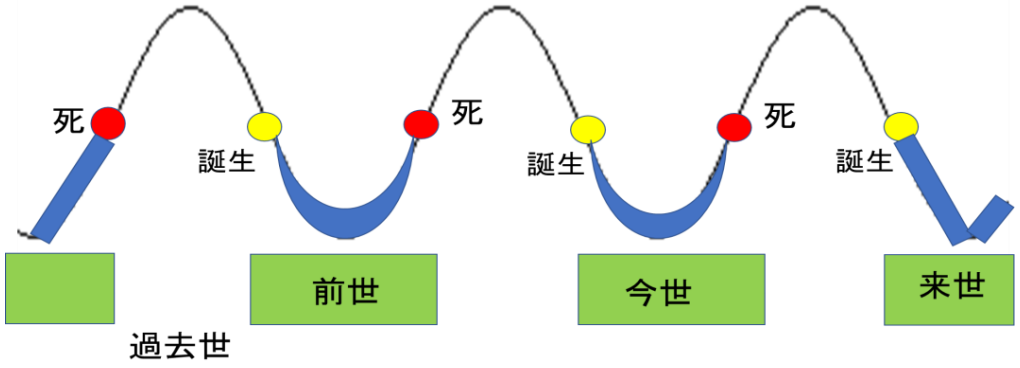
現ワンチュク王朝は
転生による王権ではない

二つの「非在」に
挟まれた短い時間

本当に非在なのか

何もなくなってしまうのか

何もなかったのか



（中仕切り）

誕生について　ー子どもの頃の不思議

子どもの頃、誕生について
不思議を感じたことはなかったか

赤ちゃんはどこから来ると思っていたか

自分はどこから来たと思っていたか

「お父さんとお母さんが
仲がいいと生まれるのよ」

お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいる

ではどうやって、おなかの中に入ったのか
どうやって、出てくるのか

「・・・おなかの中に赤ちゃんがいるなら、
産む時は、おなかを切らなければならないはず
なのに、どうしてお母さんには傷がないのだろう」

「帝王切開」で生まれてきた人

お母さんのおなかに「傷あと」がある

その「傷あと」をどう感じるのか

「おなかの傷」という、目に見える痕跡がない場合、子どもたちはどう考えるか

親から「自らの誕生（出生・出産）」の話を聞かせてもらえたか

「おまえは、橋の下から拾われてきた」

精神分析

フロイトの周りにいた大人たち
「子どもの不思議」を収集
たわいない言葉
（意味のない、気まぐれのような言葉）

少年ハンス（5歳）
妹ハンナの誕生に際して

フロイト「ある五歳男児の恐怖症分析」（1909年）

「僕は卵を産んだことがある」

（ハンス）「パパが卵を産んだのを知ってるよ、ママがそう言ってたもの。」

（父親）「じゃあママに聞いてみようか。」

（ハンス）「嘘だよ、でも僕は前に一度卵を産んだことがあるんだ、そうしたら、ひよこが飛び出してきたんだ・・・卵の中から小さなハンスが出てきたんだ」。

「生まれる前、僕はどこにいたの」
Where was I before I was born?

5歳半の少年フリッツ

メラニー・クライン「子どもの心的発達」前田重治訳、『M.クライン著作集、1』誠信書房、1983）。M. Klein, The Development of a Child, 1921, The Writings of Melanie Klein; vol.1

（ハンス）
　妹の誕生を不思議に感じる
⇒赤ちゃんはどこから来たのか

（フリッツ）
　自分の誕生を不思議に感じる
⇒僕はどこから来たのか

自分が生まれる前

まだ「いなかった」

どこに「いた」の

生まれる前、私たちはいなかった

非在（未生）

自分が生れてこないこともありえた

「自分が生まれてこない自分の家族」

「自分がいなくても、
世界が今と何も変わらずに回っている」

私はある時期、自分には生れない
ことを選ぶ可能性があったのに、
その道を選ばなかったということを、
繰り返し考えていました

芥川龍之介『河童』

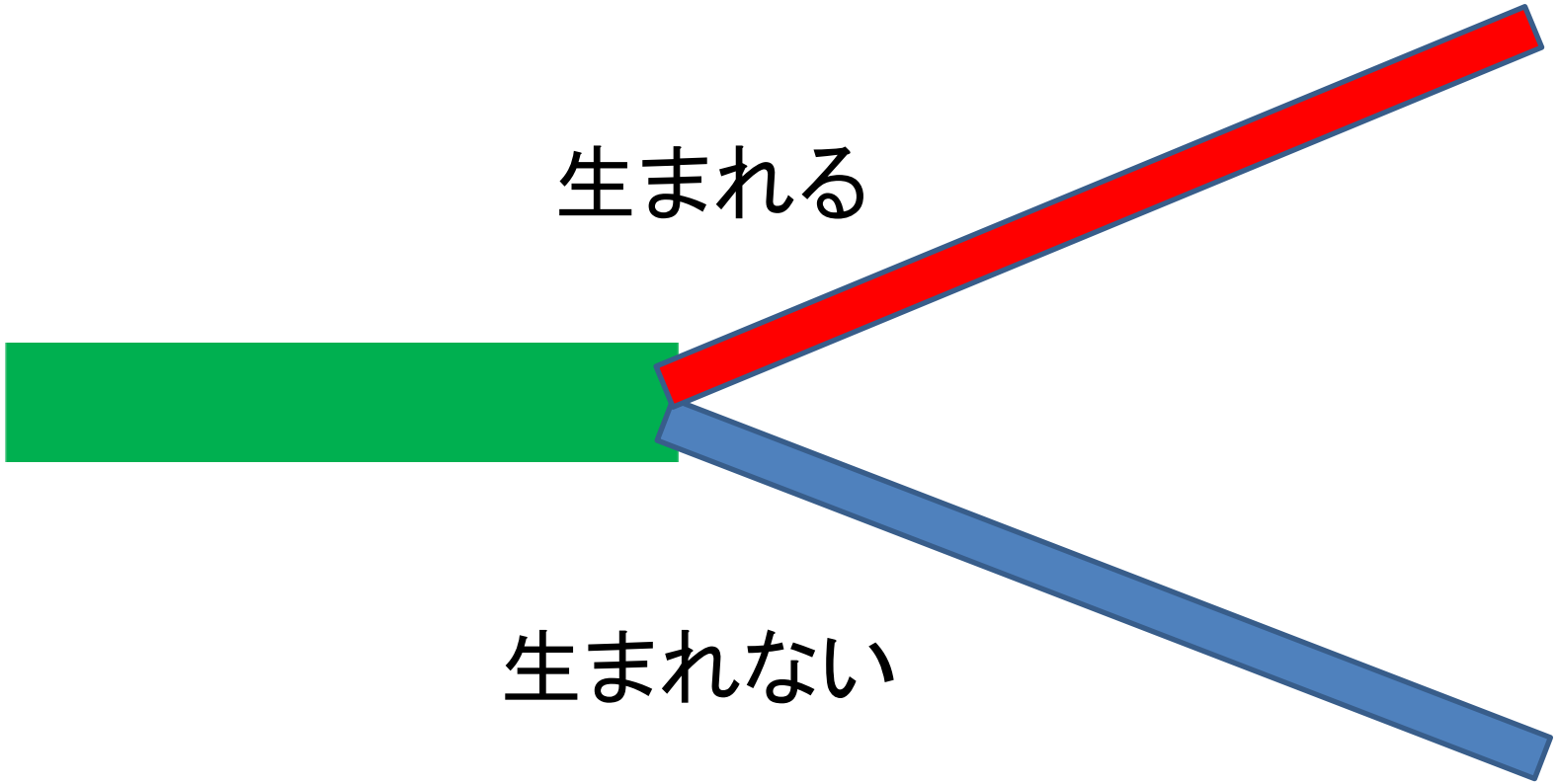
本当に生まれてきたいか。

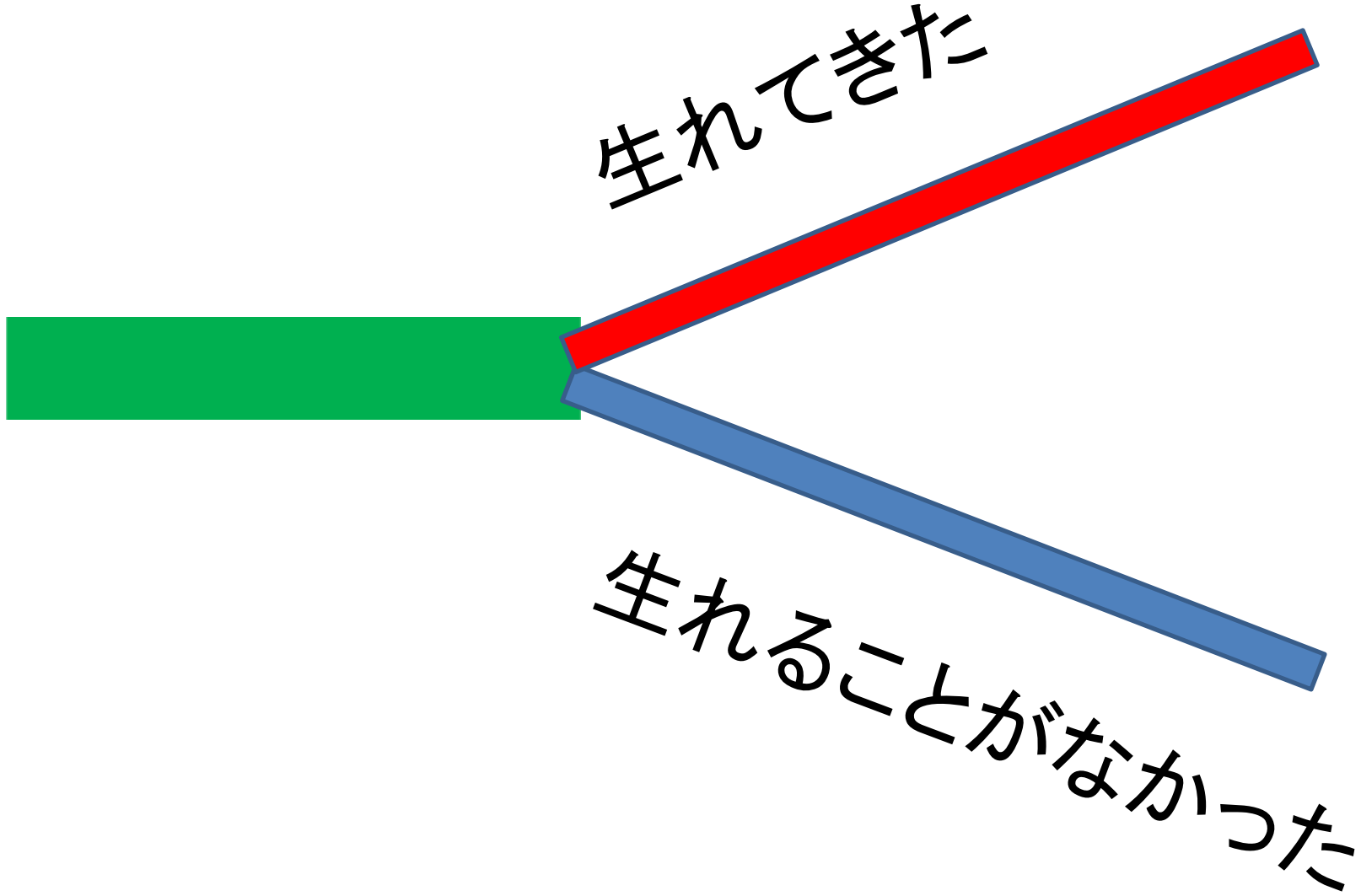
「お前はこの世界へ産まれてくるかどうか、よく考へた上で返事をしろ」。

お腹の中の子は・・・小声で返事した。
「僕は生まれたくはありません。」

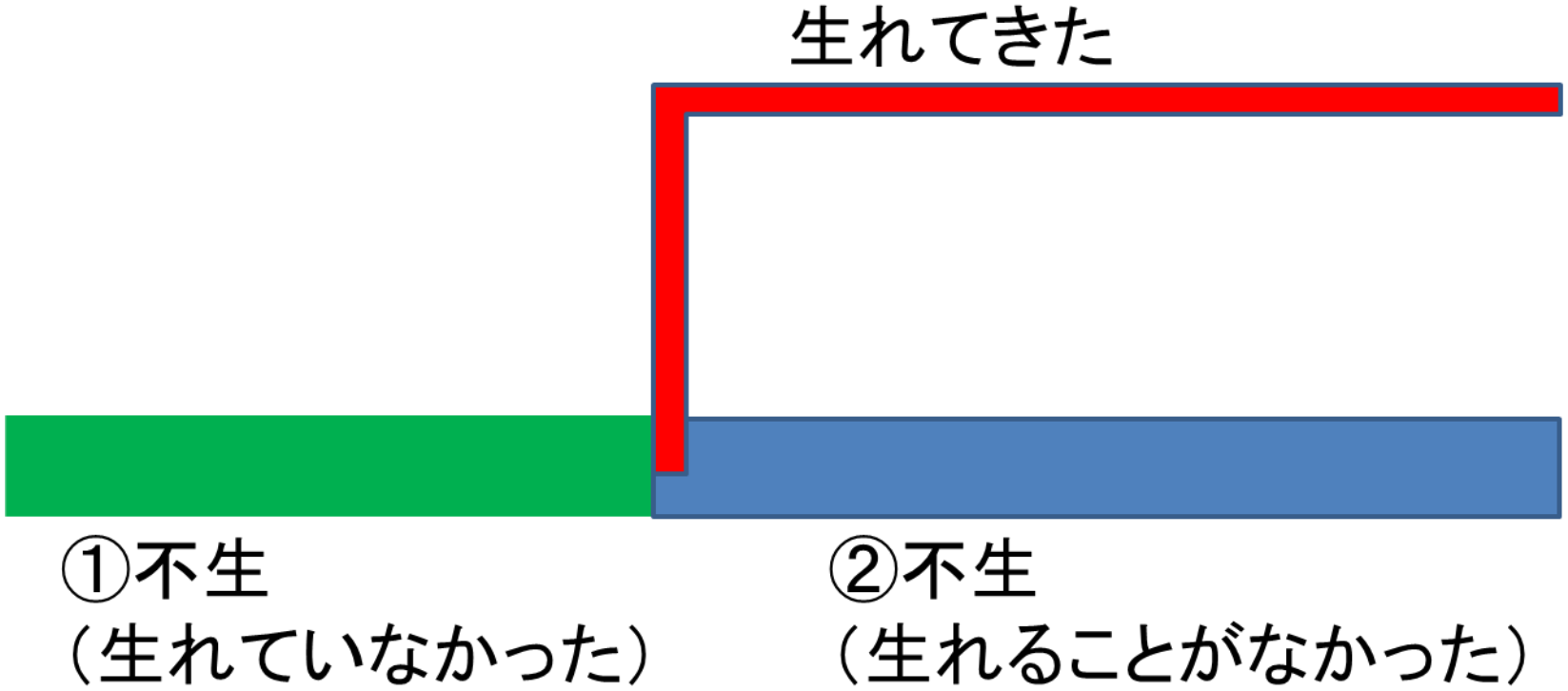
私たちには、生まれてこない道があった

私たちはその道を選ばずに来た




生れてきた
生れることがなかった

「生れる」方が特別である（無理している）



「私」が生まれることがない世界

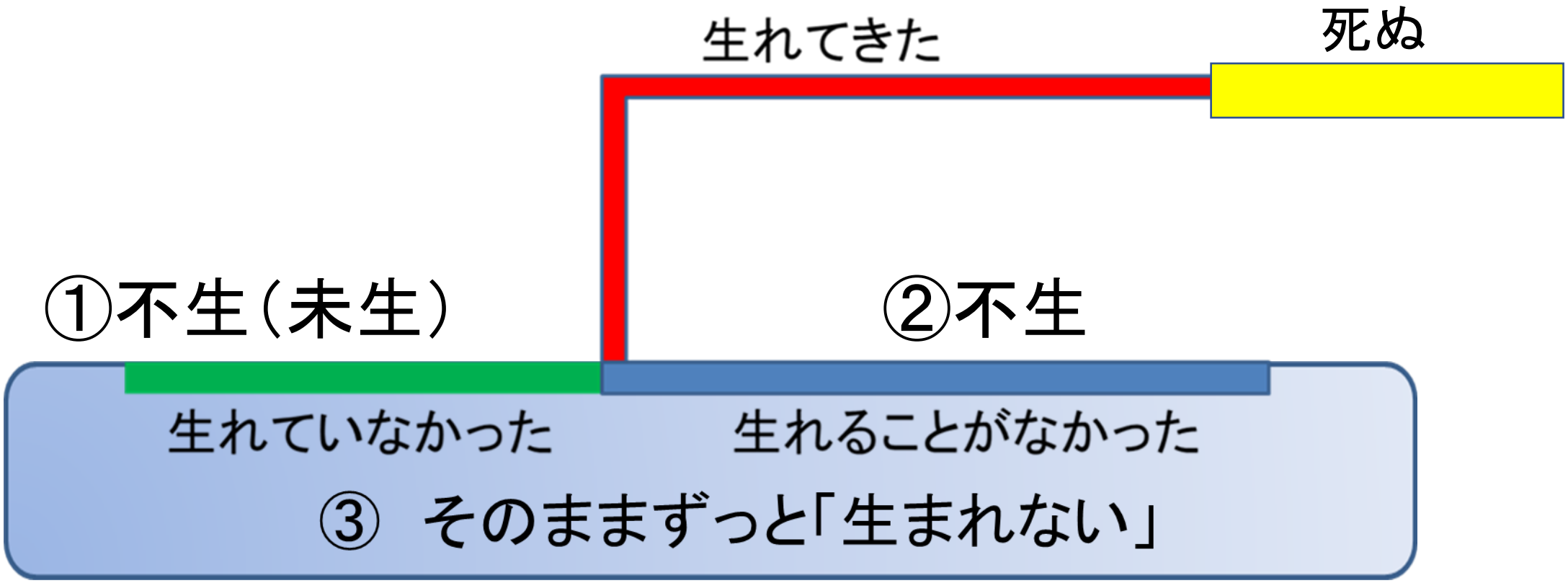
３　不生　　盤珪禅師

生死
（生まれて死ぬ「いのち」）

不生
（生まれてこない「いのち」）

不生

３－１「私」が生まれることがない地平



江戸期の禅僧・盤珪禅師

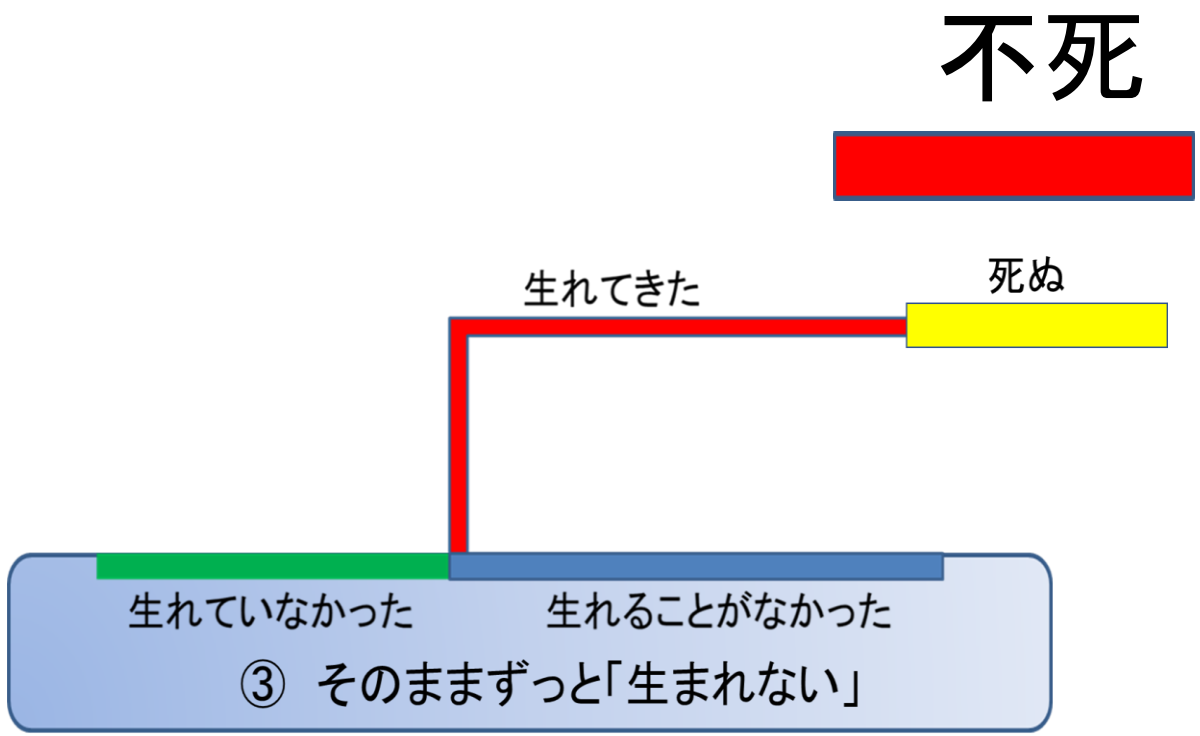
禅哲学の極意
「不生（生まれてこない地平）」

不生禅　（鈴木大拙）

「不死」とは違う

不死＝死なない

不生＝生まれてこない
死ぬこともない

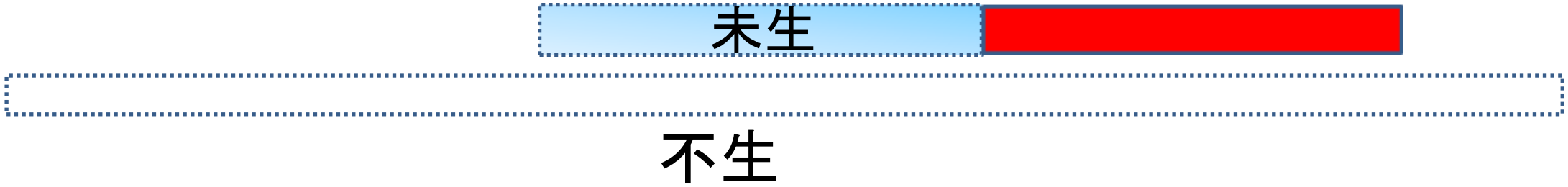


生まれてこない

「未生」とも違う

未生は、私がまだ生まれていない

不生は、その私が生まれることがない



まだ生まれていないのではない

そのままずっと「生まれない」

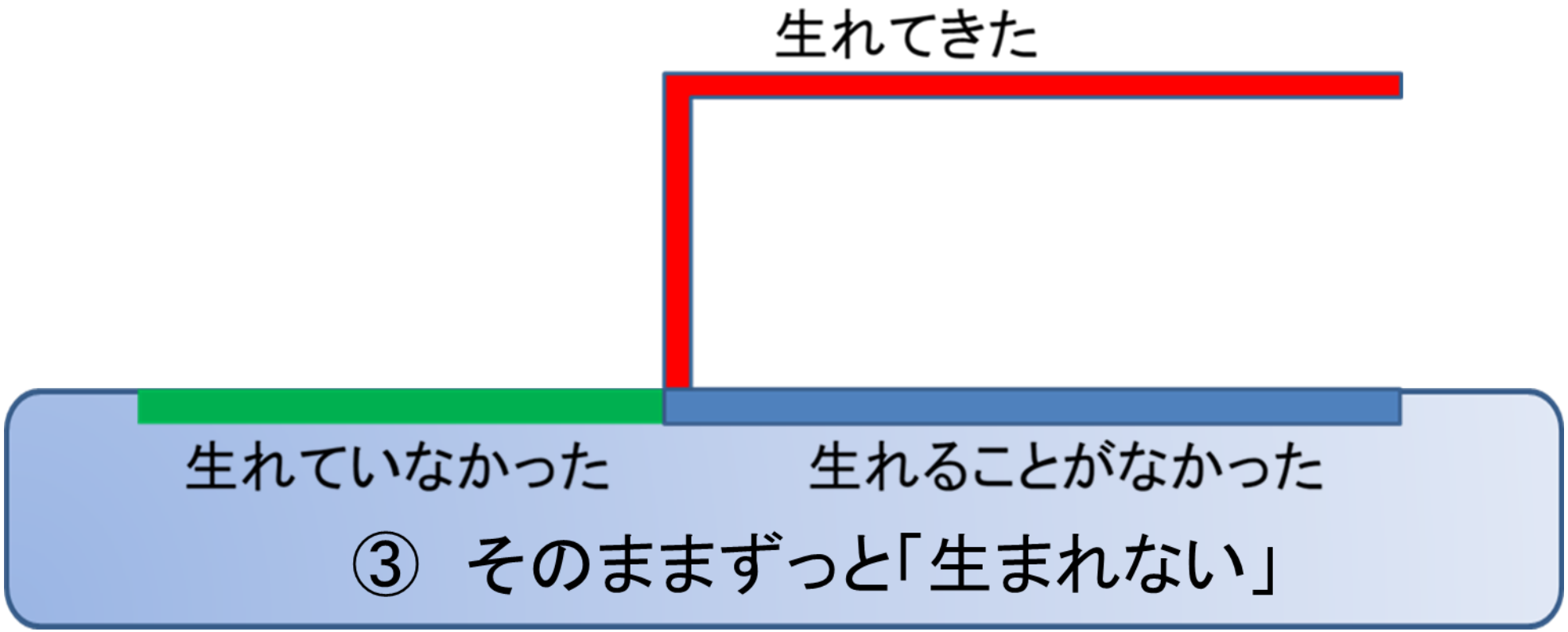
「私」が生じない

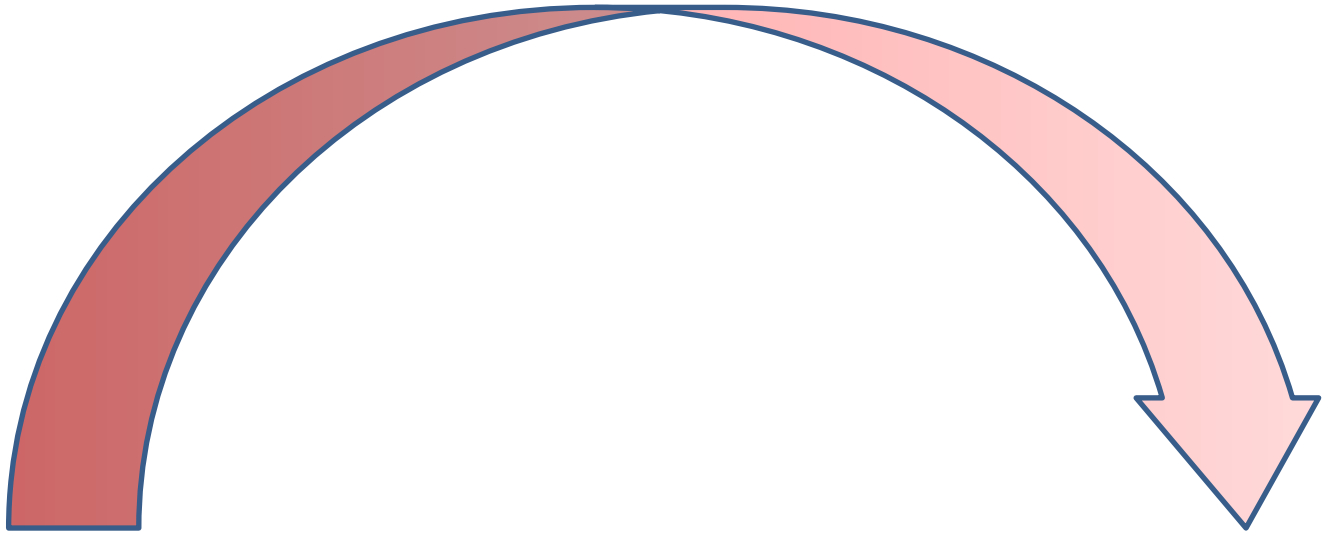
（存在することがない）

３－２，不生は、私によって分断されない

永遠の時の流れ

「私」が生まれることがない





不生

そのままずっと「生まれない」

永遠の時の流れ

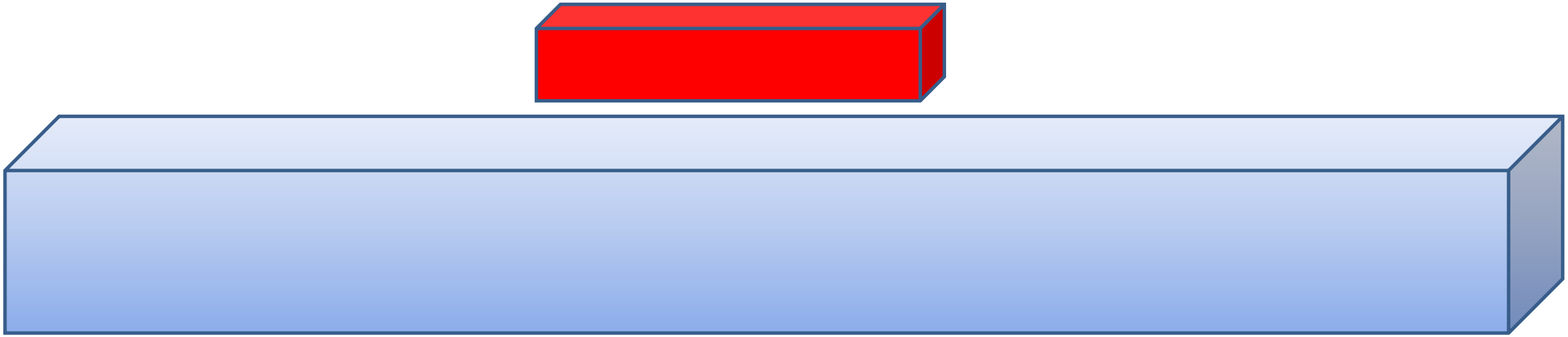
「最も善いことは、お前にはまったく手が届かない、つまり、生まれないこと、存在しないこと、無であること。」

ニーチェ『悲劇の誕生』

（「人間にとって最も望ましいことは何か」というミダス王の問いに対するディオニュソスの従者セレノスの言葉）

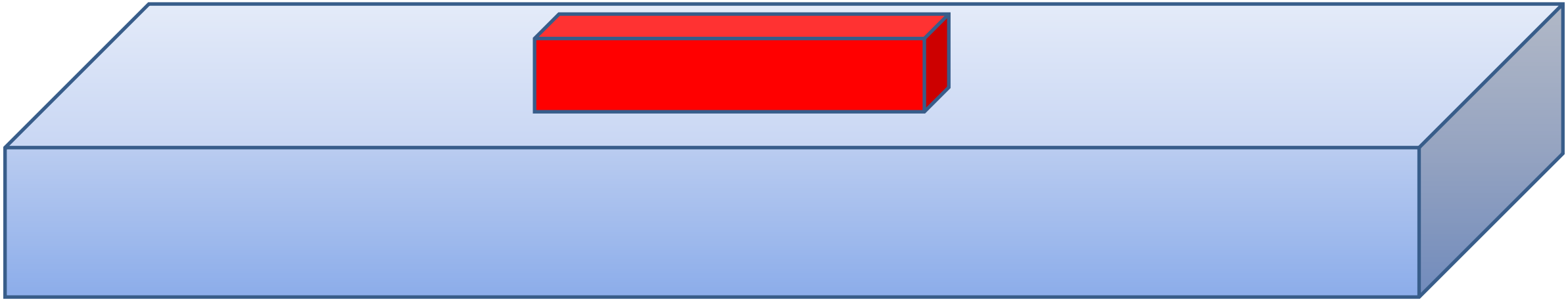
非在（未生）　「私」の存在　非在（死後）

二つの「非在」に挟まれた短い時間

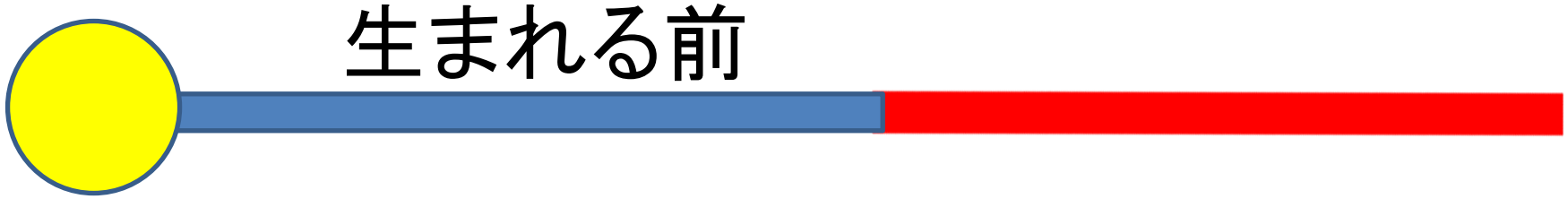


３－３，「不生」が、今も、働いている

生きている者たちの基盤に流れている



父母未生以前、本来面目



父も母もまだ生まれていなかった時の、
本当の私

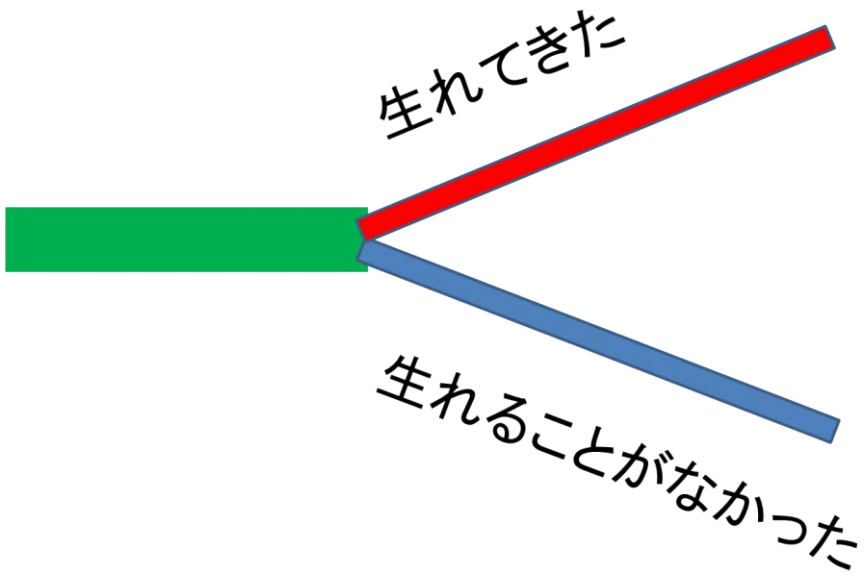
漱石『門』（十八）
主人公・野中宗助
鎌倉の禅寺の老師から公案与えられる

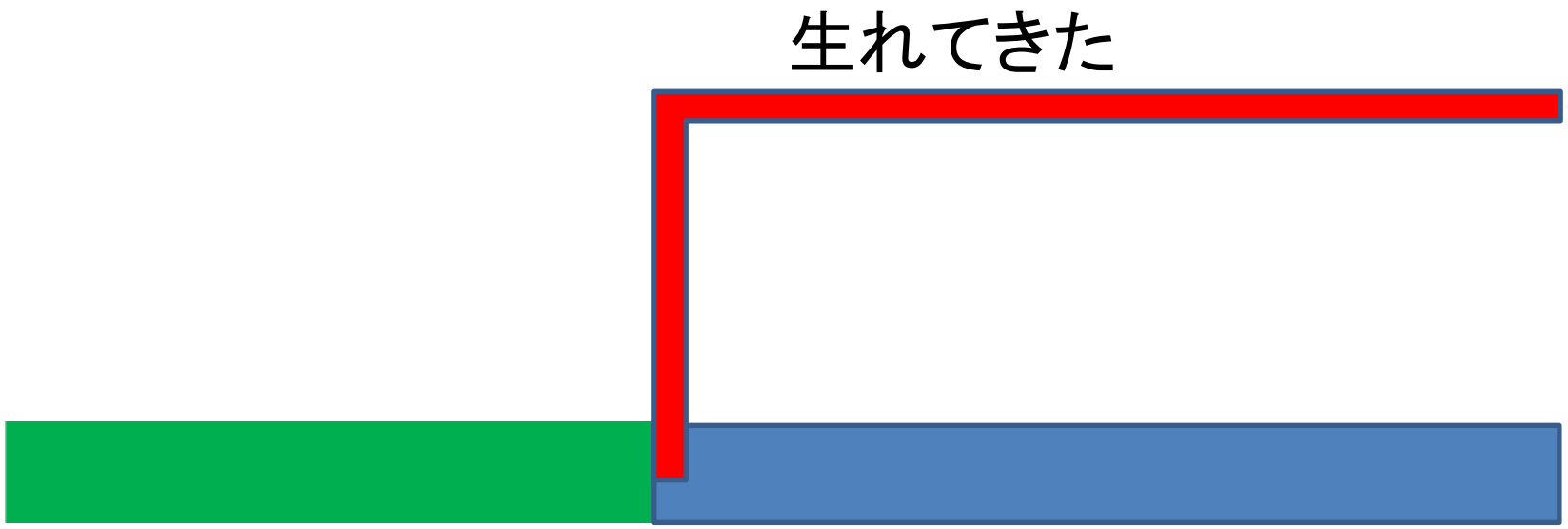
「父母未生以前本来の面目は何だか、それを一つ考へて見たら善からう」
宗助には父母未生以前といふ意味がよく分らなかつたが、何しろ自分と云ふものは必竟何物だか、其本体を捕まへて見ろと云ふ意味だらうと判断した。」

私たちはかつて子どもであった
　胎児であった

生まれてこない危険(①)

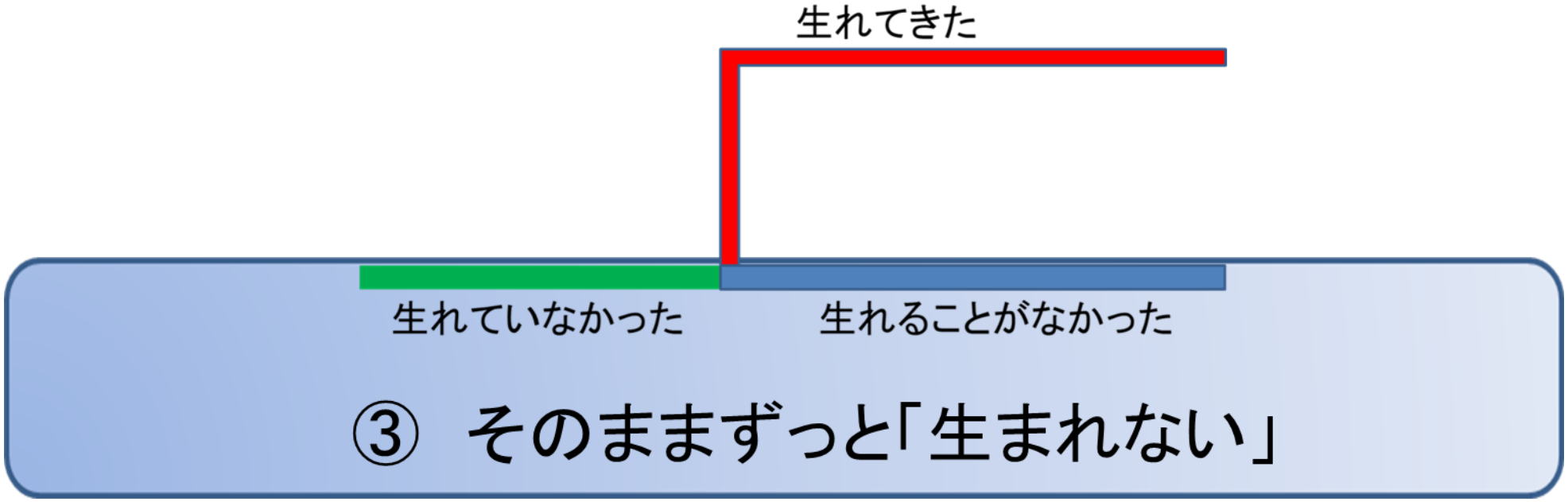
生まれてこなかった可能性(②)

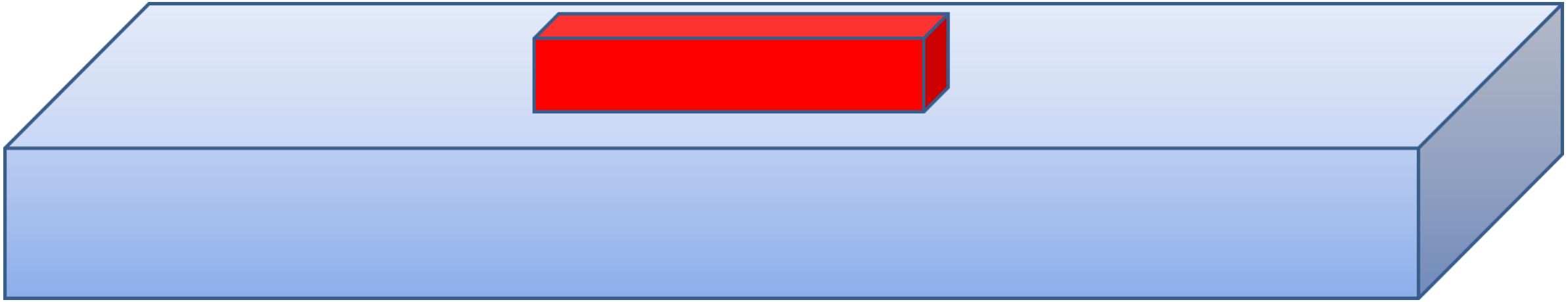




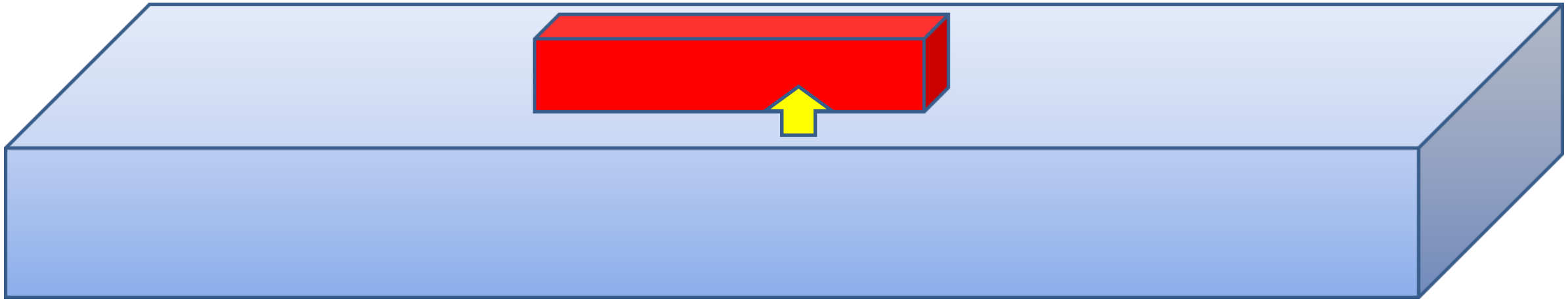
①不生
（生れていなかった）

②不生
（生れることがなかった）


生れてきた
生れていなかった
生れることがなかった
③　そのままずっと「生まれない」



生まれる前

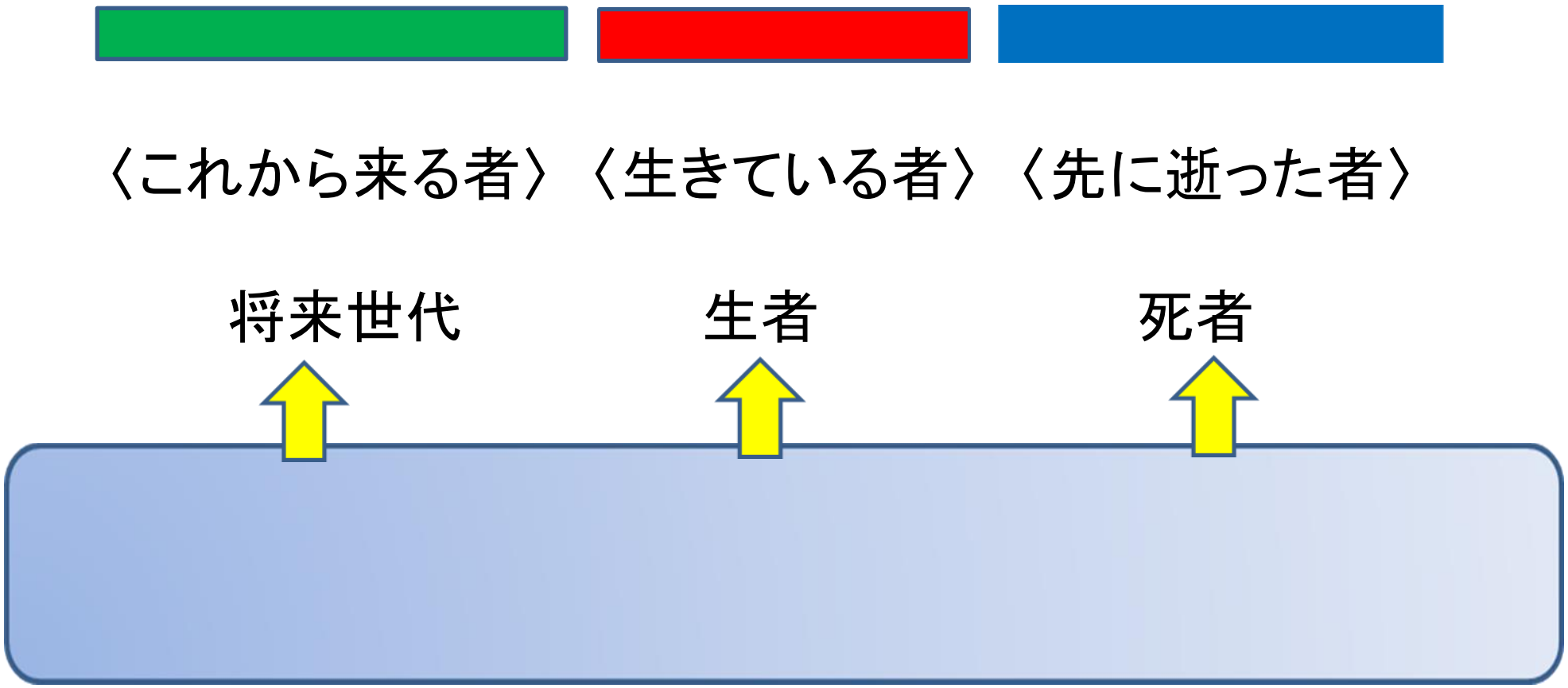


「私」を生じさせることなく

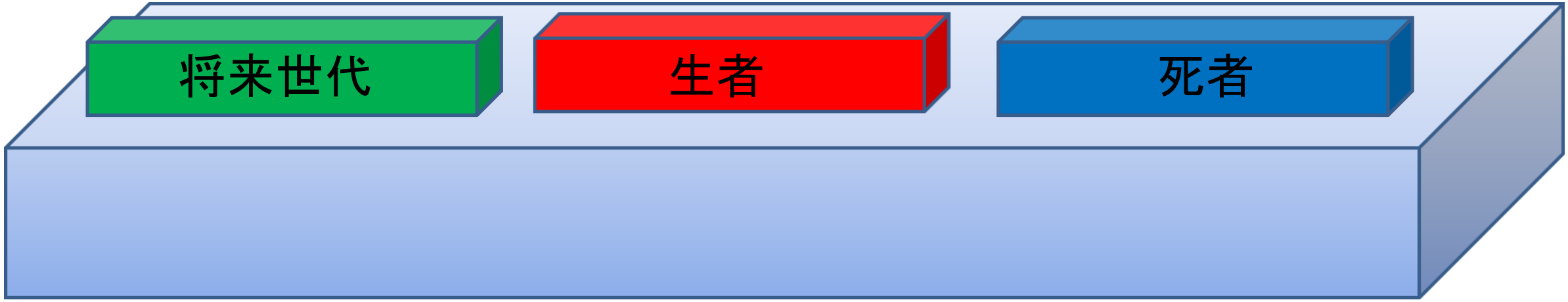
（生まれもった仏心のまま）

（生まれもった透明な心のまま）

３－４



〈これから来る者〉　〈生きている者〉　〈先に逝った者〉



不生から見ると等距離になる

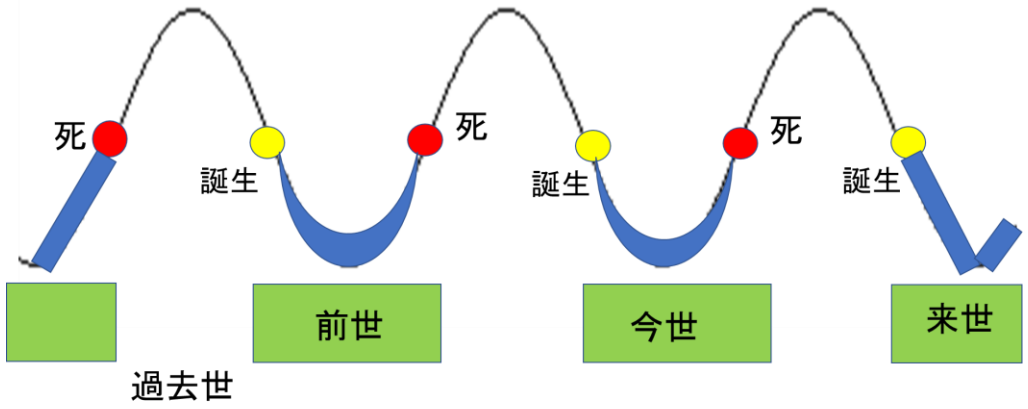
4，おわりに

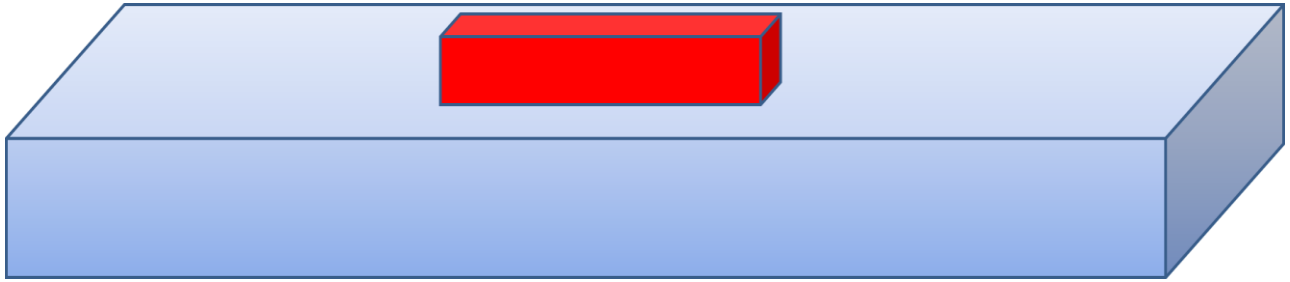
生まれてきた不思議

死んでゆく不思議

二つの「非在」に
挟まれた短い時間

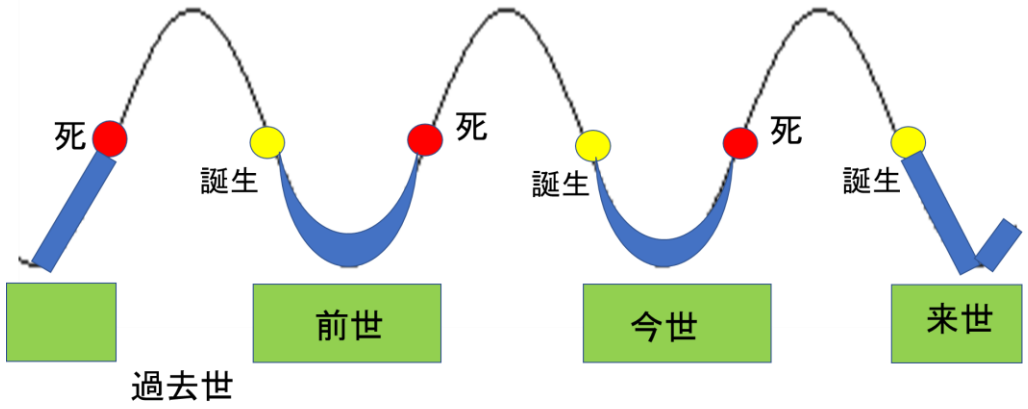
転生（生まれ変わる）

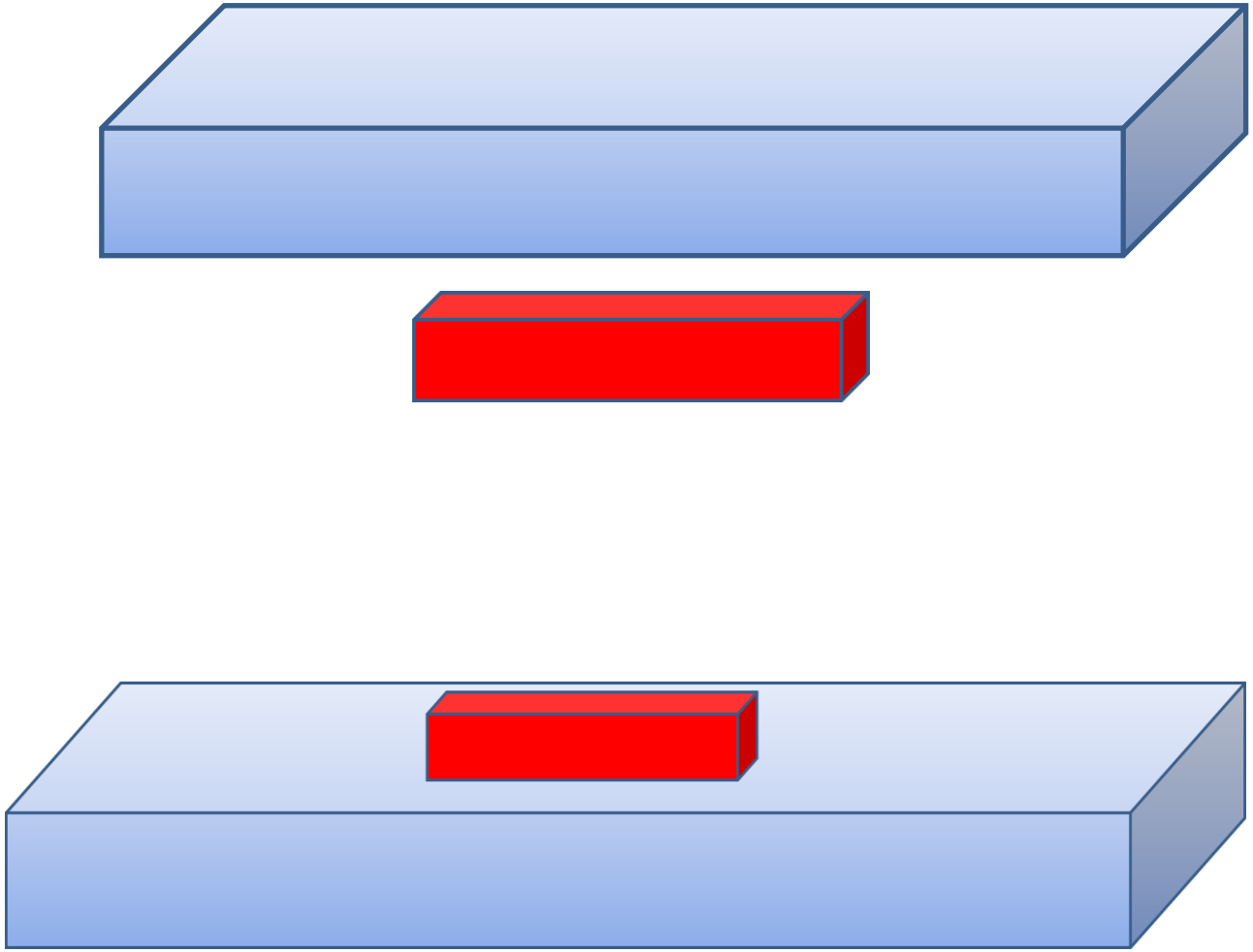




不生（生まれない）

転生（生まれ変わる）





不生（生まれない）

土にかえる

山にかえる

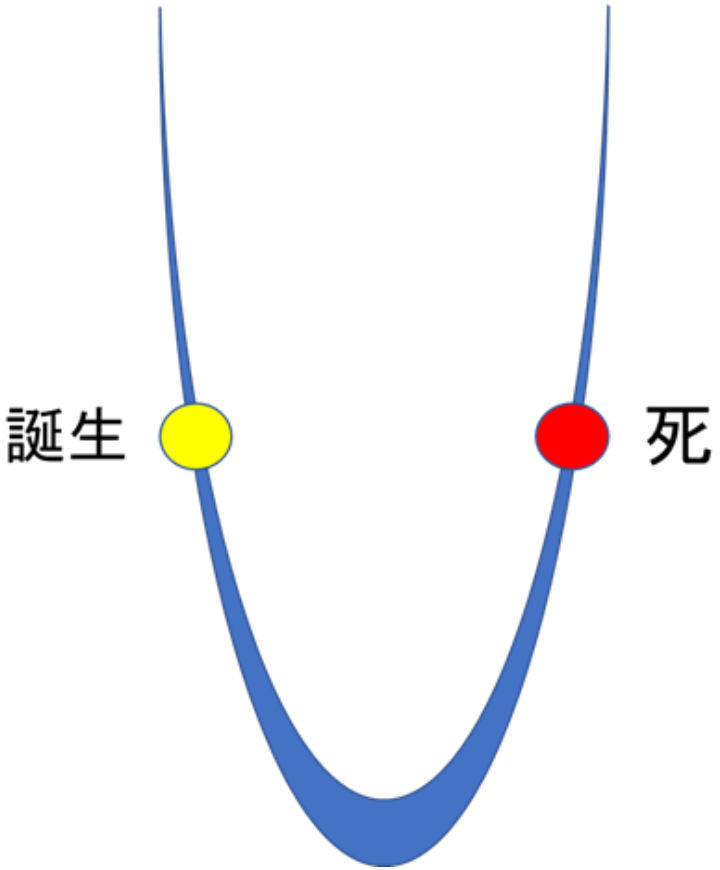
（原郷世界）

元いたところに還る

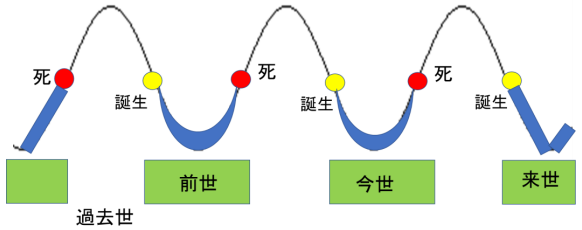
原郷からやってきて、

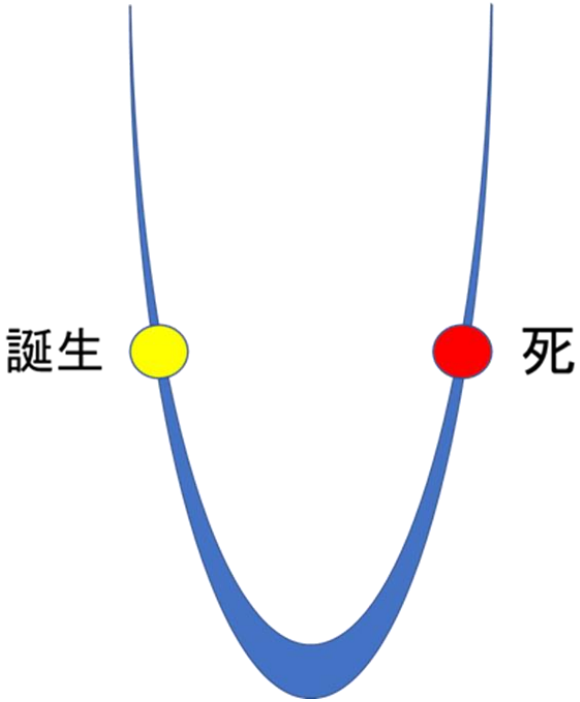
（しばしこの世で生き）

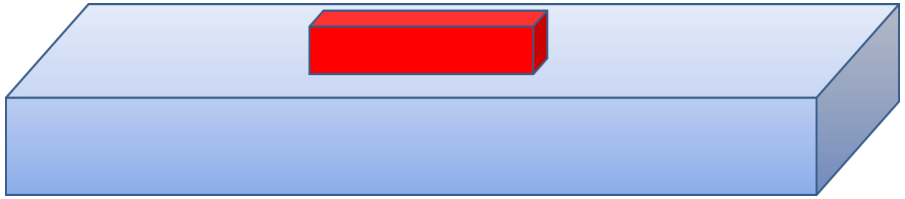
再び、原郷に戻ってゆく



転生（生まれ変わる）







不生（生まれない）

仮の宿り

ある時期だけ、タマが宿る

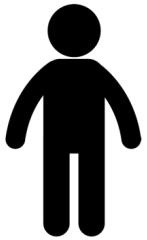
タマが宿っている間は元気

突然、やってくる、突然、いなくなる

タマ

タマの振動（タマシイ）

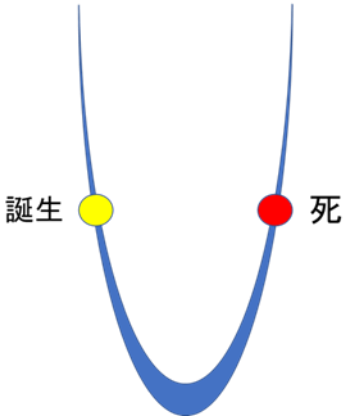
万物に出入りする（アニミズム）

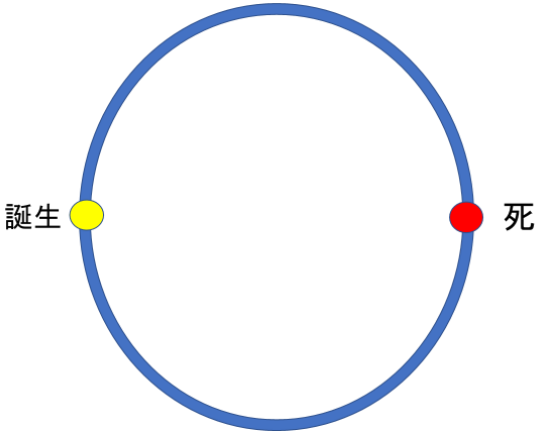


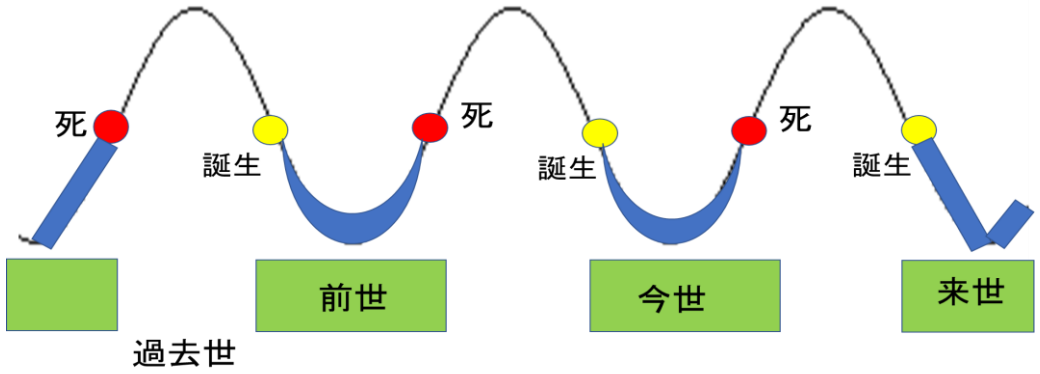
たましずめ・たまむすび

イキミタマ（生御霊）

死んだらどうなるのか

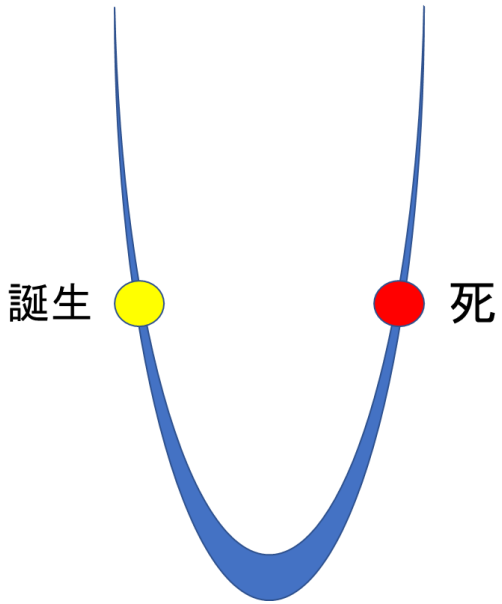




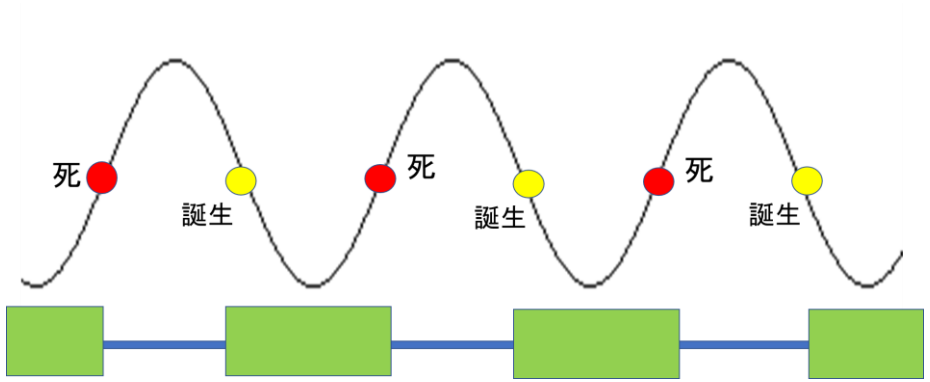


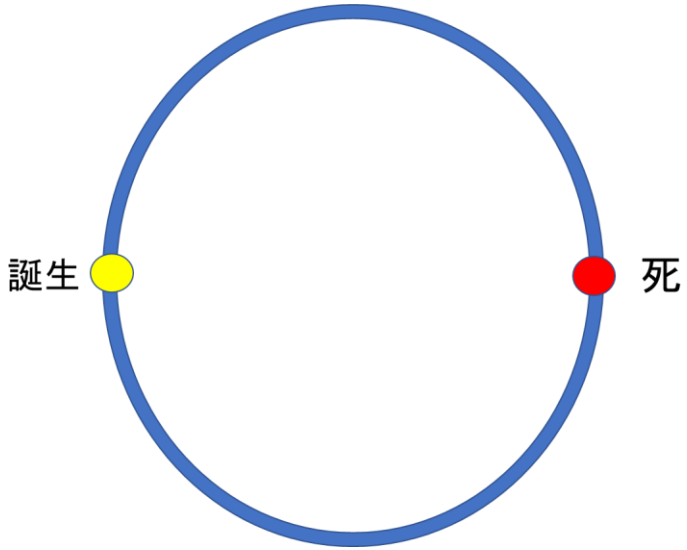
多様な話を聞いてみる

揺れてみる



正解を急がない

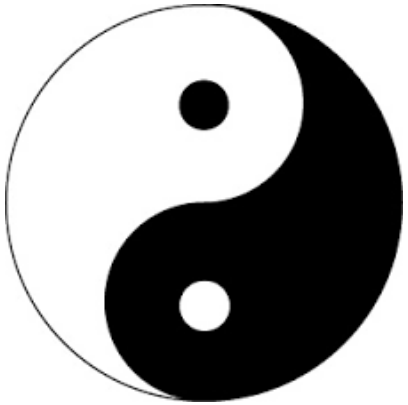




異なる多様な死生観を前にして

自らの内に矛盾を抱え込む

豊かさ･しなやかさ



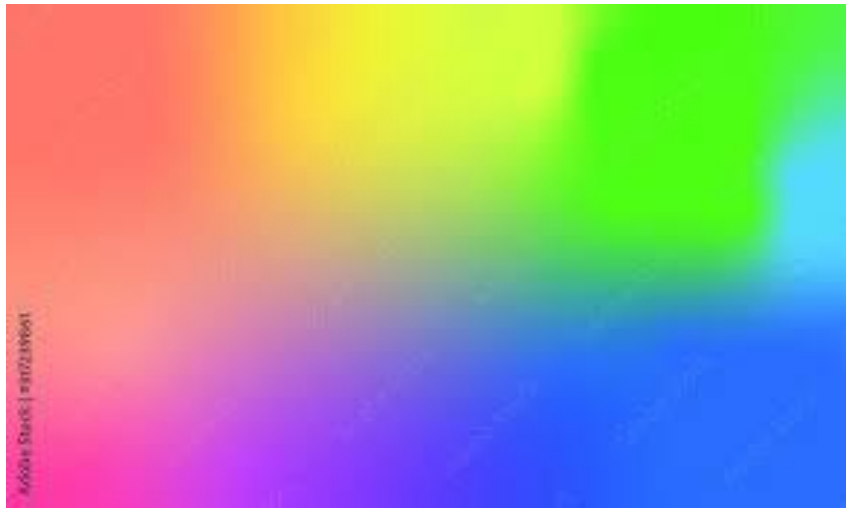
正反対の考え方もある

対立している
（両立しない）

かけ離れている
（つながりが見えない）

グラデーションになっている

欠けた部分が見つかる
（ミッシングリンク）



万華鏡

同じオブジェクト

少し動かすと、まったく異なる姿

異なる多様な死生観

豊かさ･しなやかさ

ありがとうございました

生まれてきた不思議

二つの「非在」に
挟まれた短い時間

私たちはなぜか生まれてきた

　そして生きている

たまたま生まれてきた不思議

感謝と未生怨

「生まれてきてよかった」
（感謝）

「生まれてこない方がよかった」
（未生怨）

待ち望まれて生まれた子

望まれずに生まれてきた子

（ダリ、バルザック、坂口安吾）

「子どもの頃、母親に、
なぜ僕を生んだのかと責めて
困らせたことがありました」

「本当は、私が生まれて
こなかった方が良かったのか、
本当はそう思っているのか」

なぜ私を生んだのか

生まれてこなかった方がよかった

未生怨

「ぼくが、このH学園にきたのはたしか十一年前の二歳のときだ。ぼくが、ここにきた理由はぜんぜん知らないが、やっぱり父が母を捨てたのだと思う。ぼくは生れてこなかった方がよかった。

ぼくの父は、病気で死んだ。母は、ぼくを捨ててどこかに逃げた。なぜ逃げたのか知らないが、捨てるぐらいなら子どもを生まない方がいい。ぼくに両親がいると知ったときうれしかったが、でもやはりここの方がいい。やはりもうここにきてから十一年になるから、ここの生活になれ、ふつうの家庭の生活が、なんだかだらしなくかんじる。

どうせならぼくは生れたくなかった。」

（「養護施設（当時）」で暮らす中学一年の少年の言葉『大田堯自撰集成1』藤原書店、2013、265頁に依る）

「最も善いことは、お前にはまったく手が届かない、つまり、生まれないこと、存在しないこと、無であること。次に善いのは、早く死ぬことだ」

ニーチェ『悲劇の誕生』

（「人間にとって最も望ましいことは何か」というミダス王の問いに対するディオニュソスの従者セレノスの言葉）

反出生主義

この世に生まれること

子を持つこと

否定的に価値づける

生まれてきてよかった

誕生への感謝

ハンナ・アレント　natality
出生性

出生という出来事
　⇒人間の自由を証明する

ひとりの赤ん坊が「この世界に生れてくる」という小さな出来事が、人間の自由を証明する

新しいことが始まる

タゴール

「すべての赤ちゃんは、神がまだ
人間に絶望していない、という
メッセージを持って生れて来る」

（『タゴール詩集』「迷える小鳥」、山室静訳＝弥生書房、
藤原定訳＝第三文明社、宮本正清訳＝アポロン社）

命を与えられたことへの感謝

生まれて幸せ

CSつうしん VOL31 通巻101号 2010年11月12日発行（年3刊） 編集・発行 NHK学園高等学校専攻科　東京都認可通信教育

CS つうしん

Community School 2010 秋――10～12月号

「ぼくが生まれてきたわけ」

ねえおかあさん
ぼくがなんで生まれてきたか
早くおかあさんにあかる
会いたかったんだよ
ねえおかあさん

生まれてきてよかったな
ほんとに会いたかったんだよ

作詩：松延 祥太郎/作画：中村 道雄（「ＮＨＫハート展」より）

「ぼくが生まれてきたわけ」

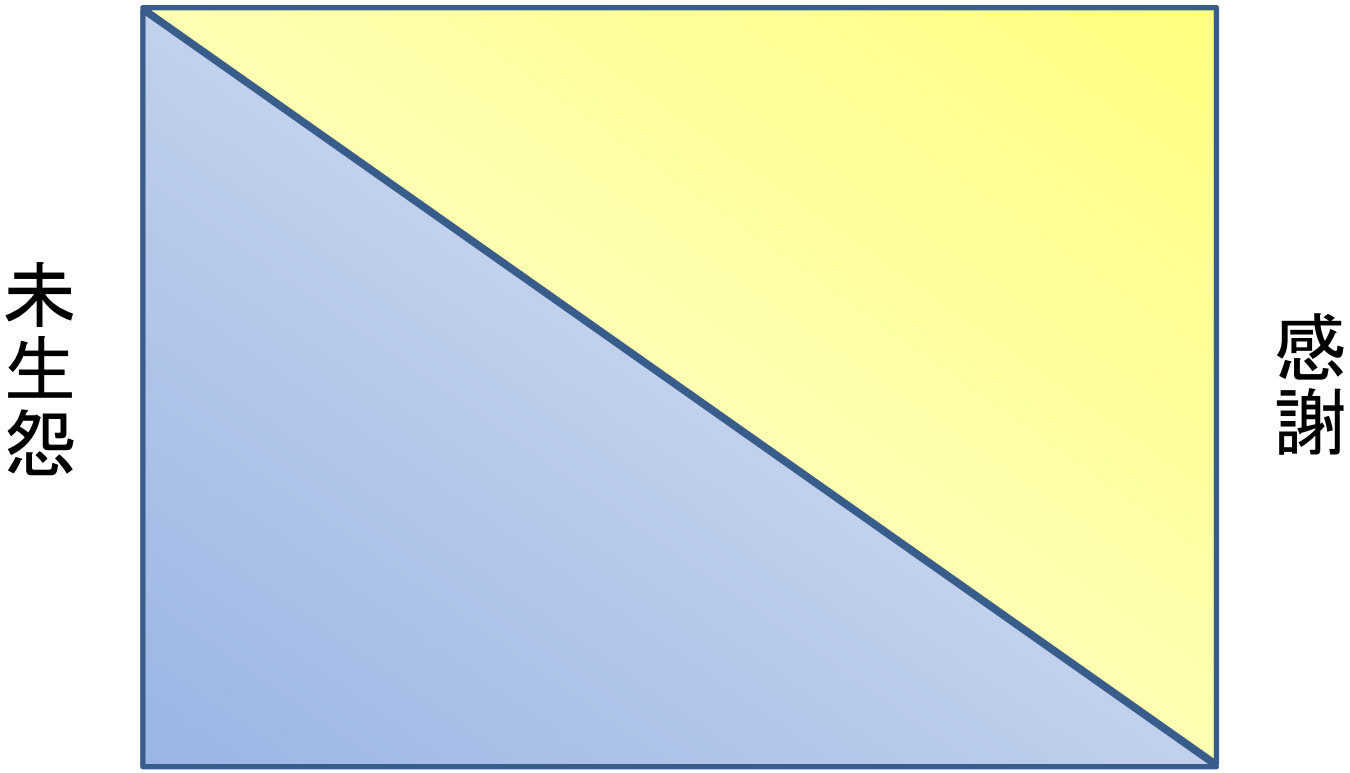
ねえおかあさん
ぼくがなんで生まれてきたかわかる
早くおかあさんに
会いたかったんだよ
ねえおかあさん

生まれてきてよかったあ
ほんとに会いたかったんだよ

作詩：松延 祥太郎/作画：中村 道雄（「ＮＨＫハート展」より）

感謝
生れてきてよかった

未生怨
なぜ私を生んだのか
生まれない方がよかった


未生怨
感謝

気がついた時には、いた

私たちは、どういうわけか、
生まれてきた

存在しないこともありえたはずなのに、
気がついた時には、既に、
この自分として、生きていた

自分で選んだのではない

気がついた時には、既に、いた

このからだの中にいた
この家の子どもであった

ハイデガー『存在と時間』

「被投性　Geworfenheit」

投げ込まれている

非存在の可能性 das Nichtseinkönnen

そもそも存在しないこともありえた

自分が生れてこなかった可能性

「ばらまき　ursprüngliche Streuung」

九鬼周造「偶然性」

「あることもでき、ないこともできる」

「離接(りせつ)的偶然」

私たちは、どういうわけか、
生まれてきた

存在しないこともありえたはず
なのに、気がついた時には、
既に、この自分として、
生きていた

「意志が引き返して意志する」

受け入れがたい運命
にもかかわらず、その運命を「自ら欲
する」という形で、引き受ける

意志しないこともできたのだが、しかし、
わざわざ「引き返して」、意志する。
自らの運命として引き受ける。
そうした意志が救いをもたらす。

ありがとうございました

生殖補助技術によって
生まれた子どもたち

自分が「人工授精」で誕生したことを、
人生のある時、知らされる。

「根っこにあるもの」
「その上に自分の経験が積み重なってきた土台」

「生きてきた人生を失うことになる」
「意味がなくなる」

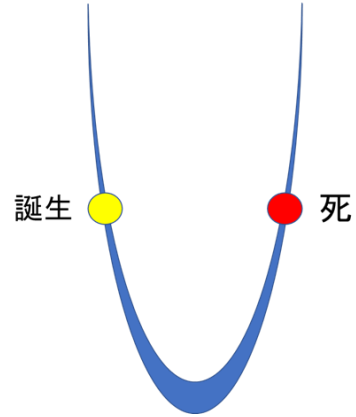
「家族や子どもに対して責任を感じる」
「空白が」
「自分の問題も解決していないのに」

村の子どもとして育てる

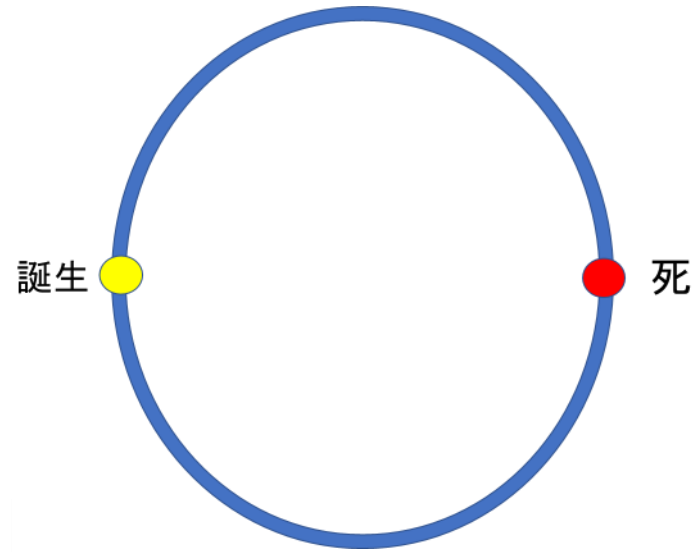
家族の子どもではなく

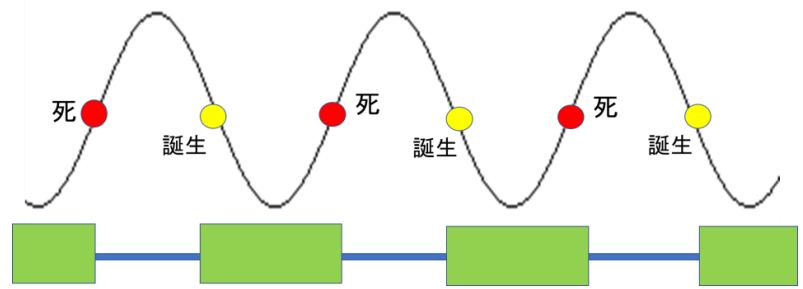
村全体の子どもとして

（次世代の労働力として）


誕生
死

誕生
死


誕生
死


死
誕生
死
誕生
死
誕生